東孫里兄

八犬傳

三

へ13
3704
3

門 くへ13
號 3704
巻 3

作者々々とたくさんさうに言ふてもなくてもちや手習に
他の作意を見做ふて綴る假名読八大傳ハ原本の
尽の清書なから椎の実筆の拾ひがたもはりくて
五帙に右から左から草稿ハ坂に車ハおき袋ども油断
をさせぬ書房の催促基より作のいろはにハ白ひも
艶もなきものからも習兒の戻る八房の梅を断まで
明白に條目ハちゞ人ぬ觀善懲悪看官その気で以境
ぶろに筆にさたを舐ツて記す

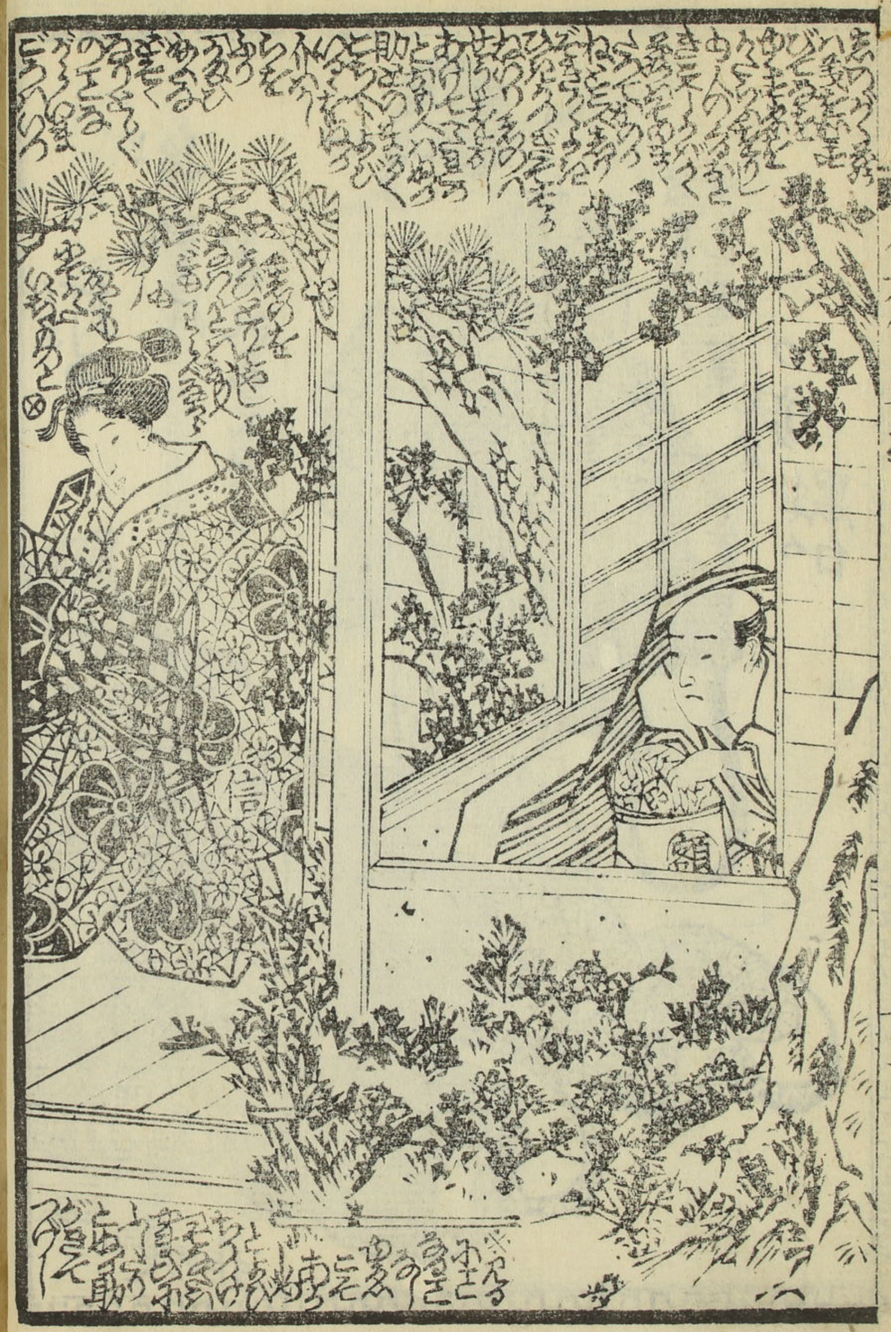
嘉永二歳己酉孟春

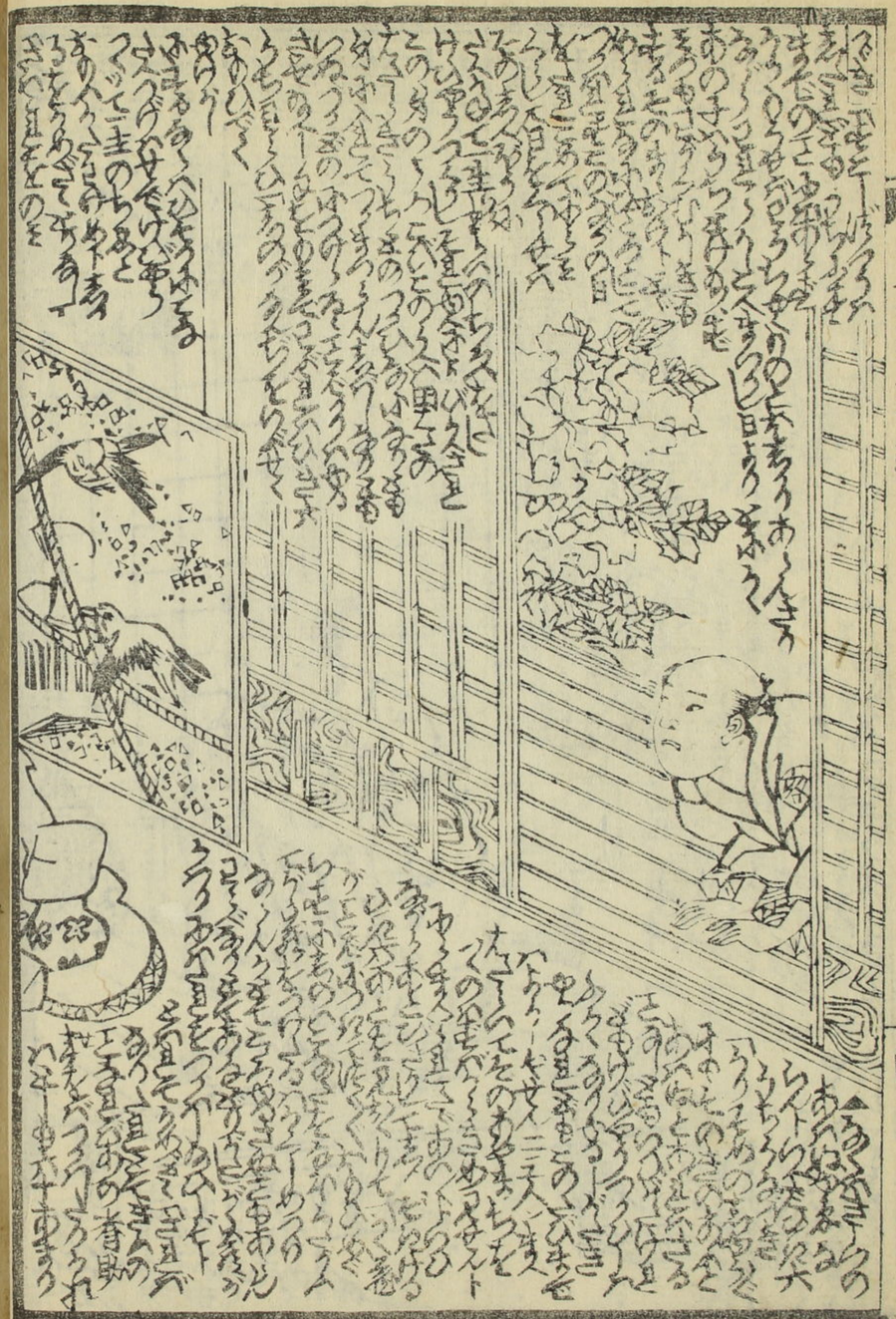
土田土太郎
五倍二

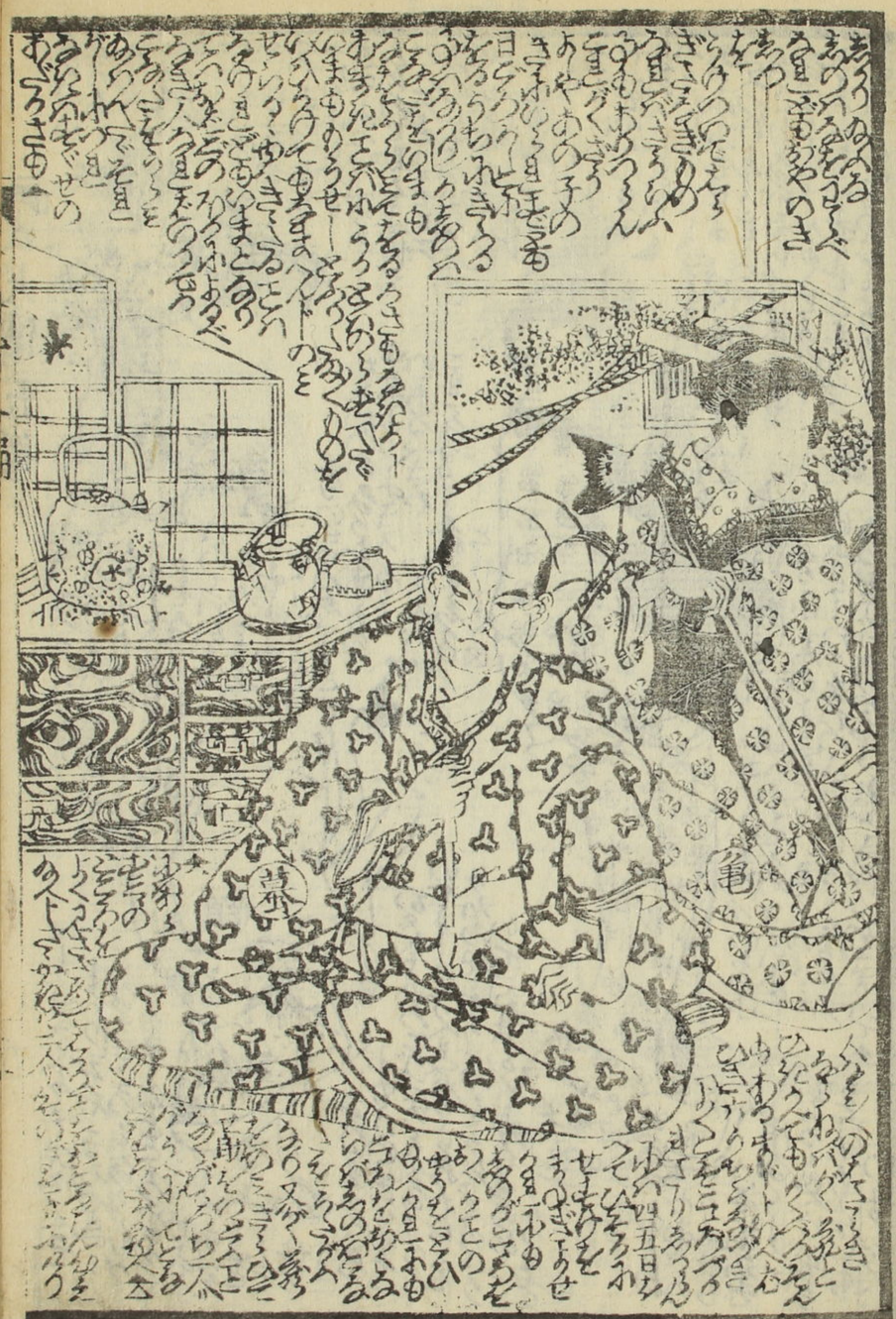
簸上宮六
奴
背

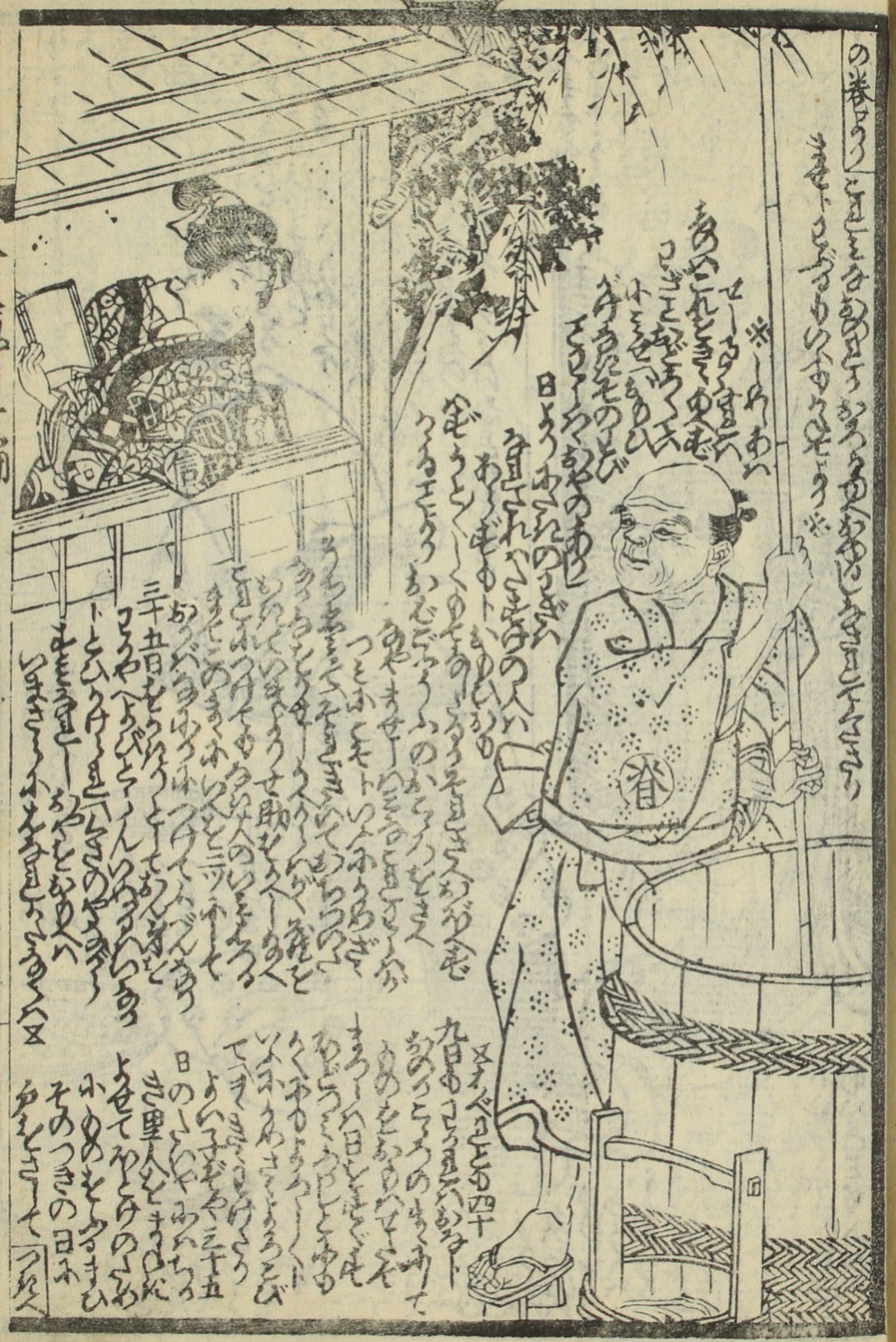
寂寞道人肩柳
杉小打ツ
大山道策ゲ

行や
大山道策ゲ妾黒白
阿是非





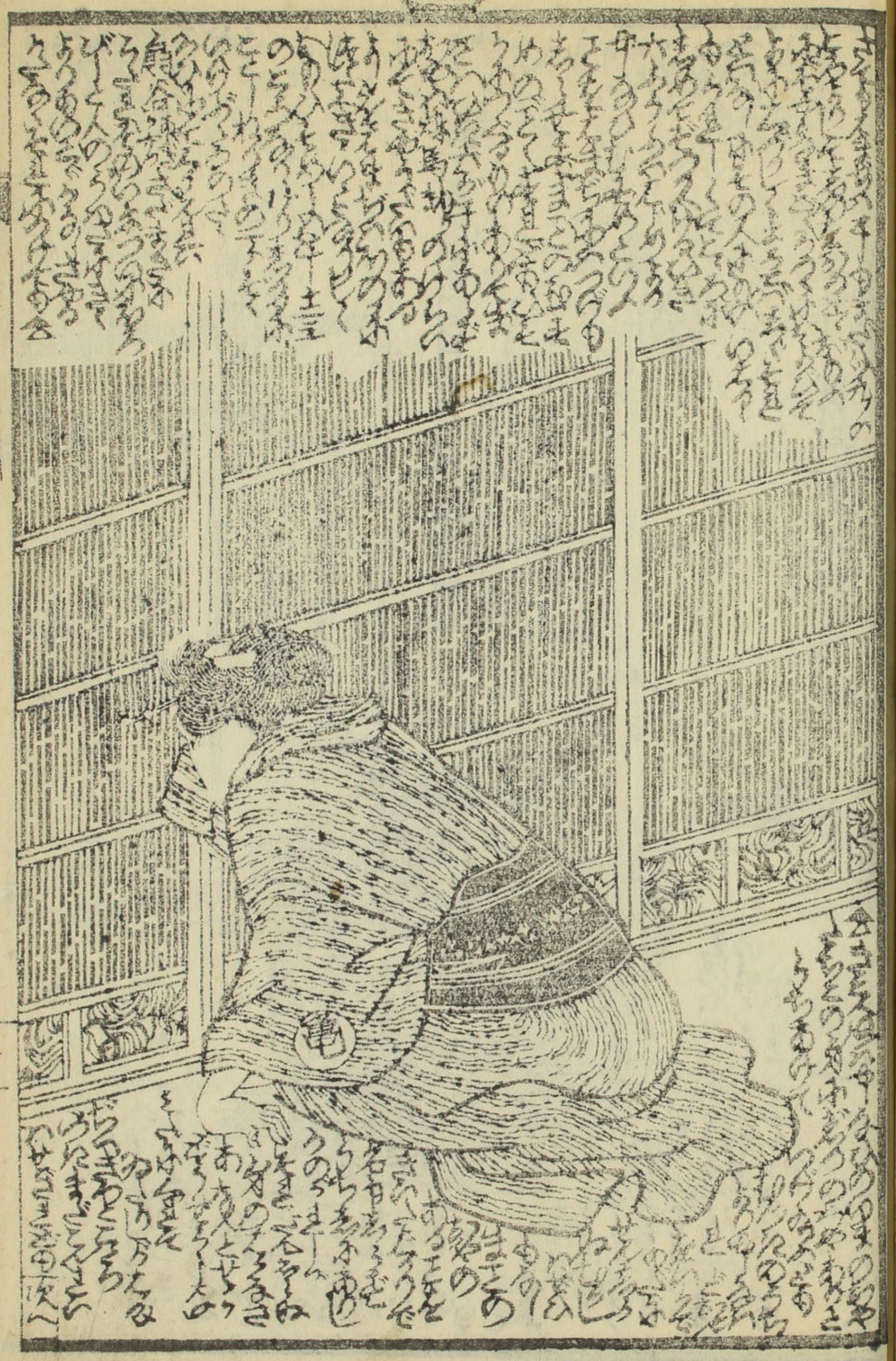


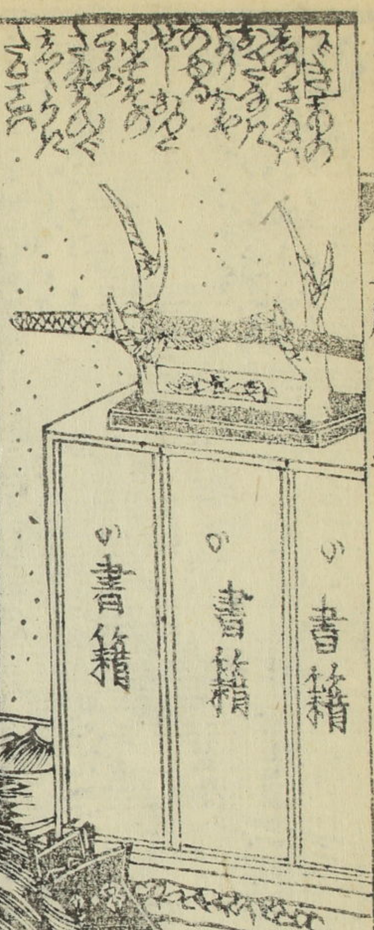


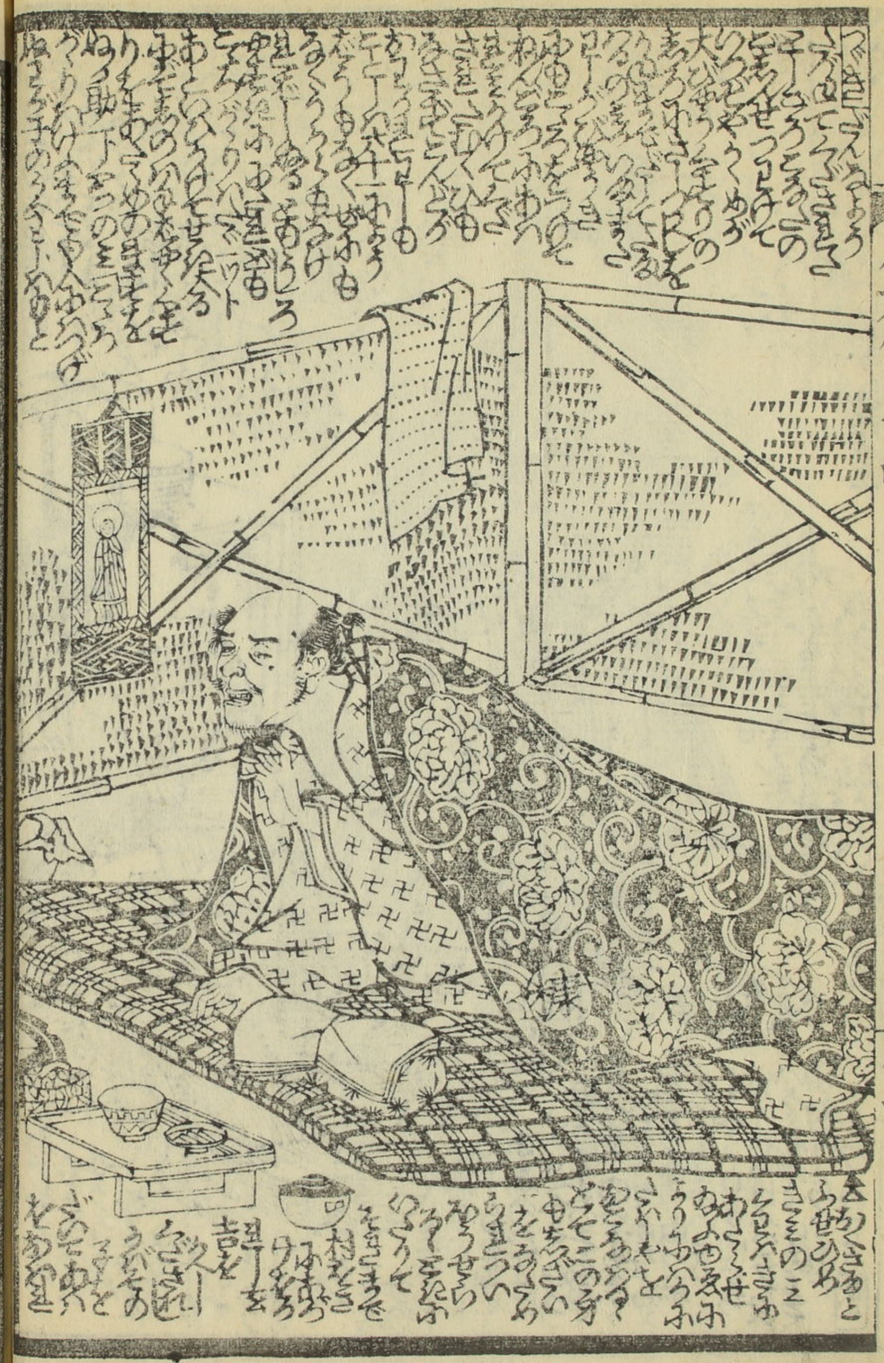
亀

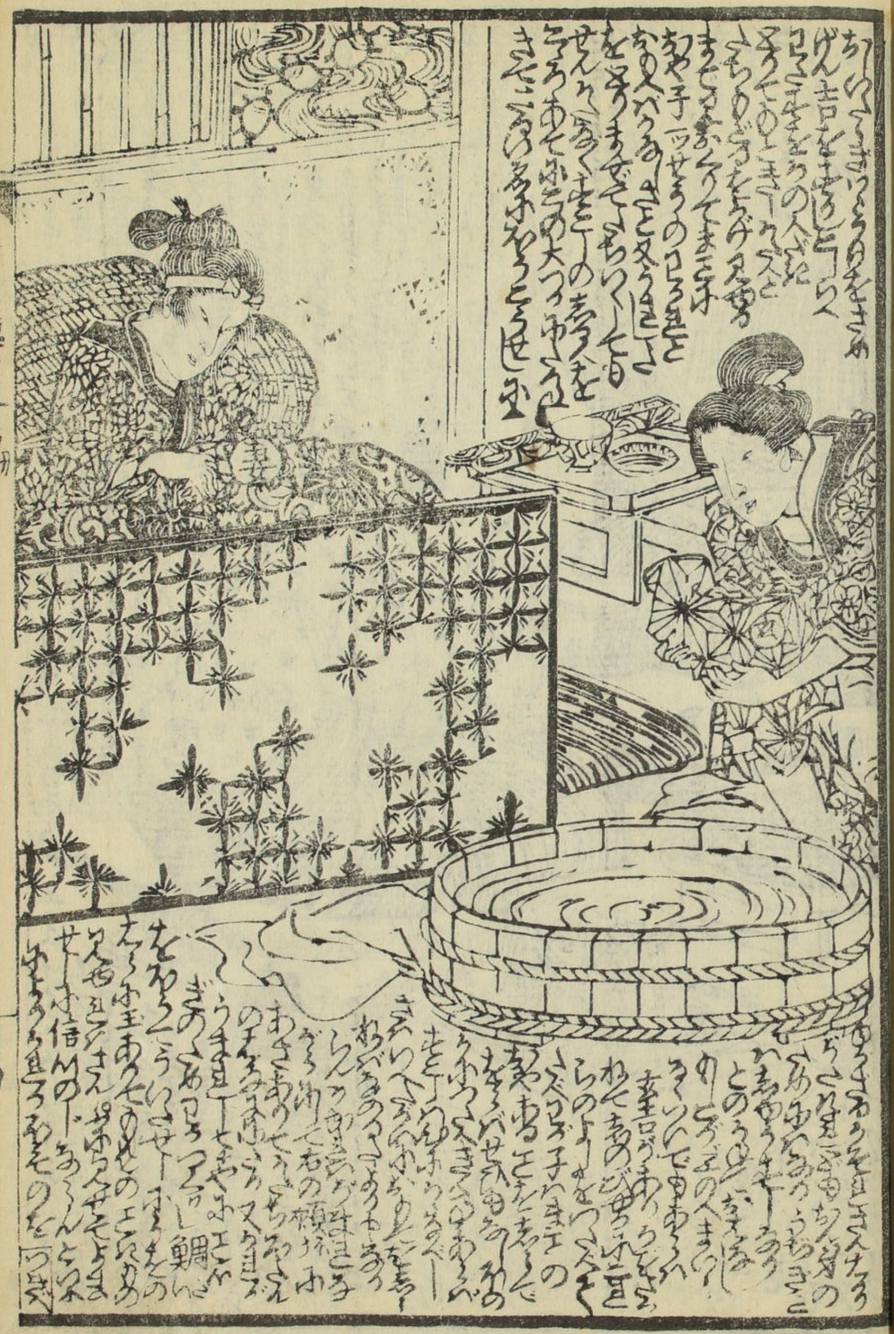
信
額

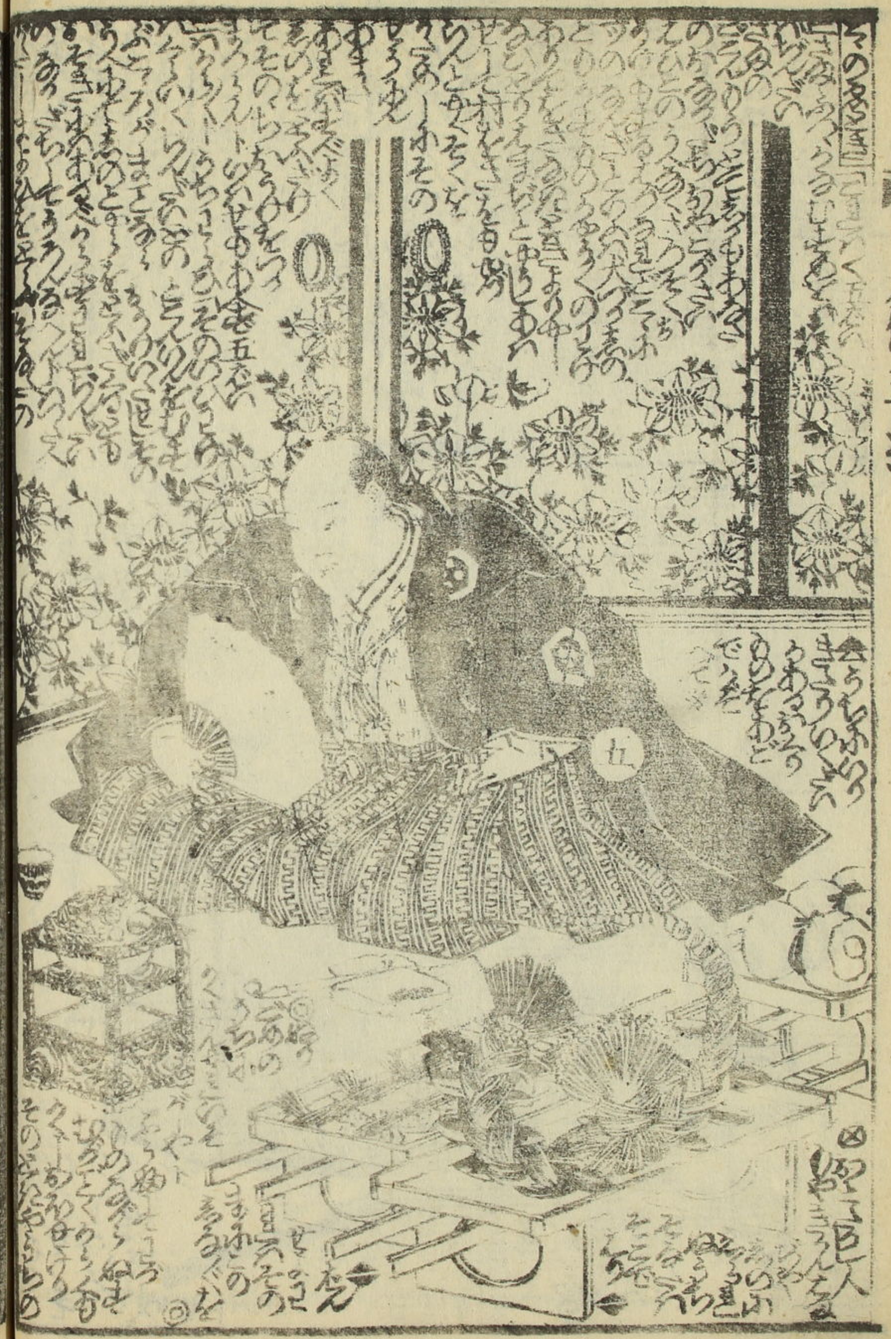
國芳画
春水作

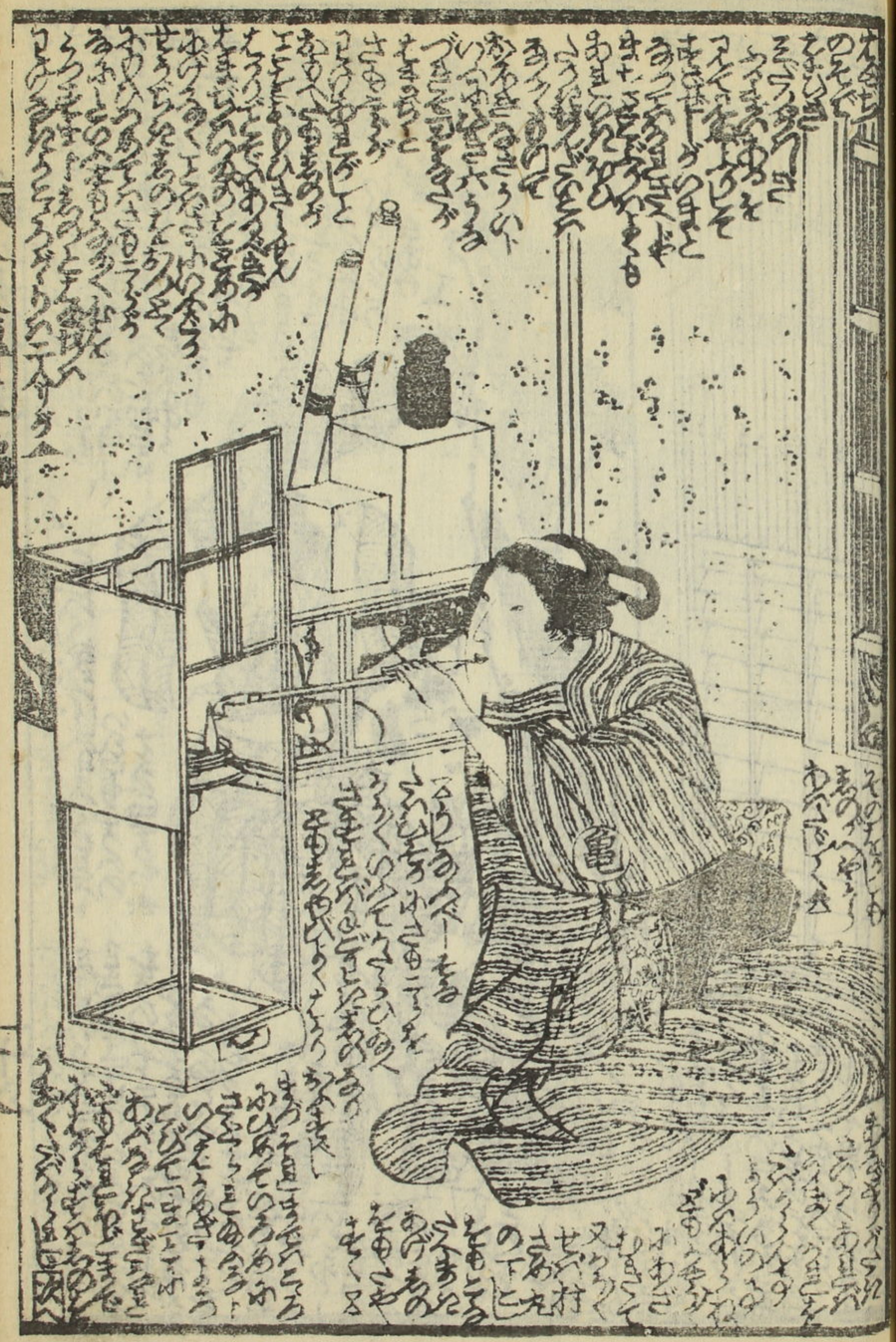


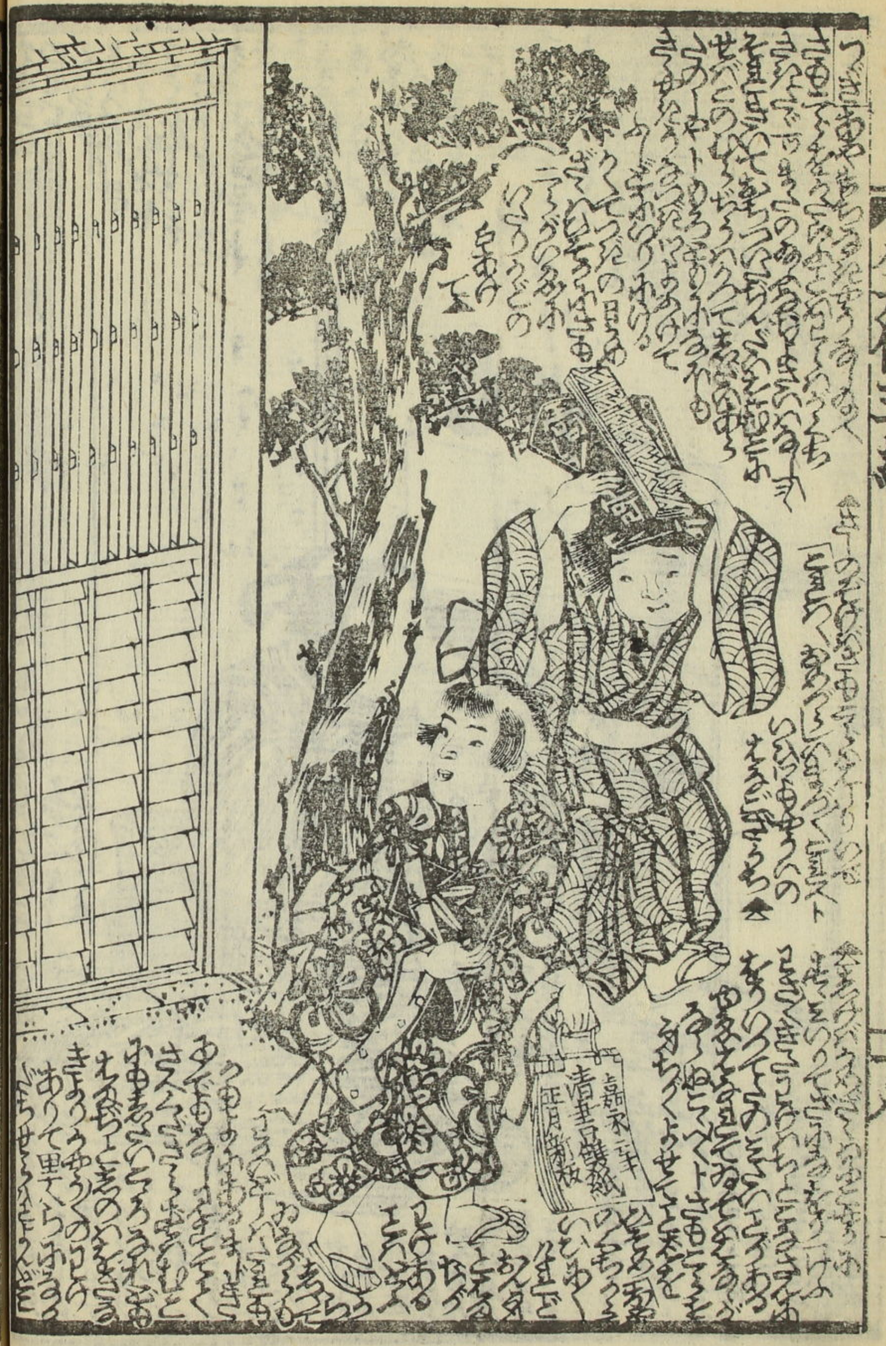

書籍
書籍
書籍

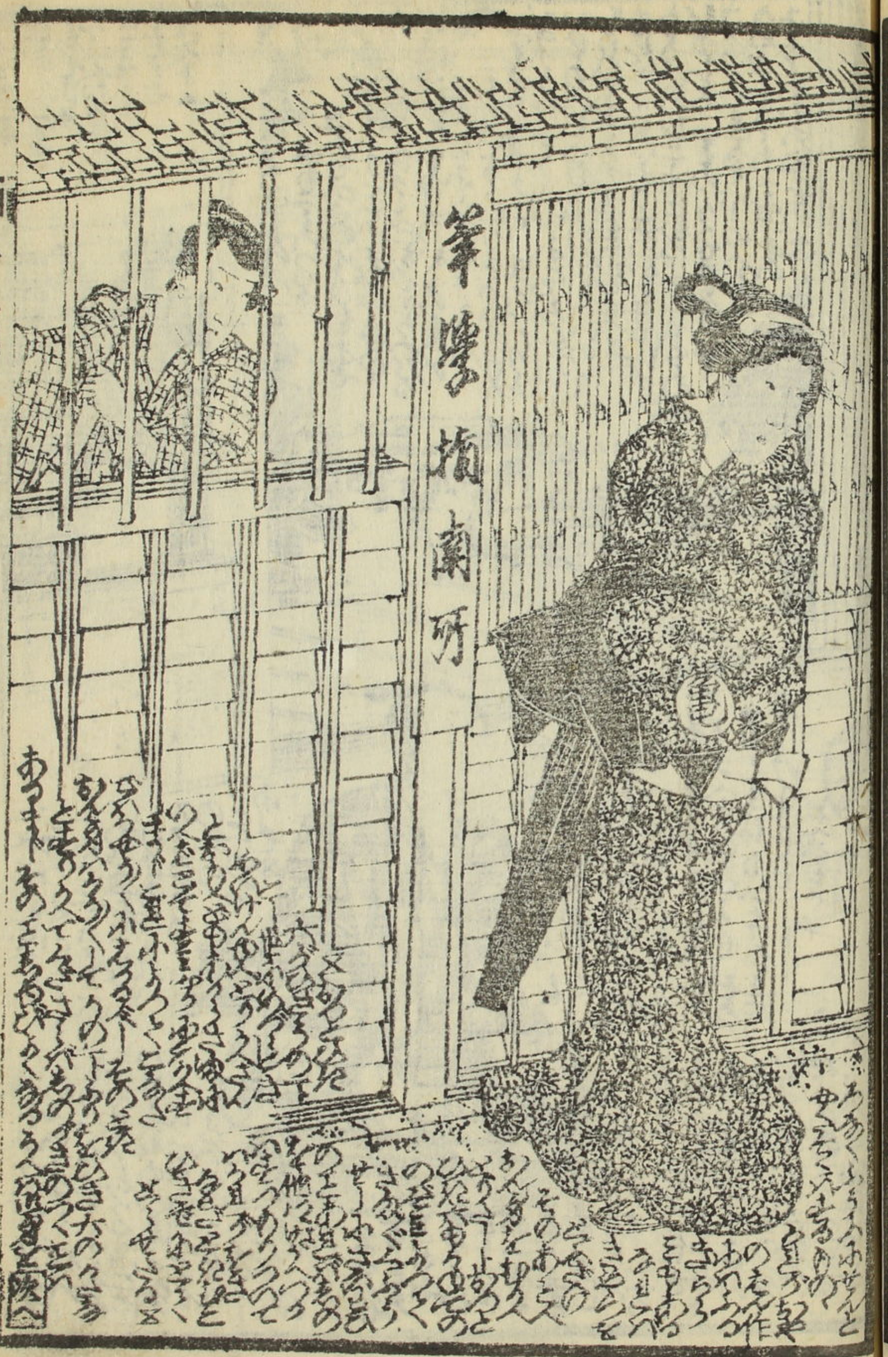


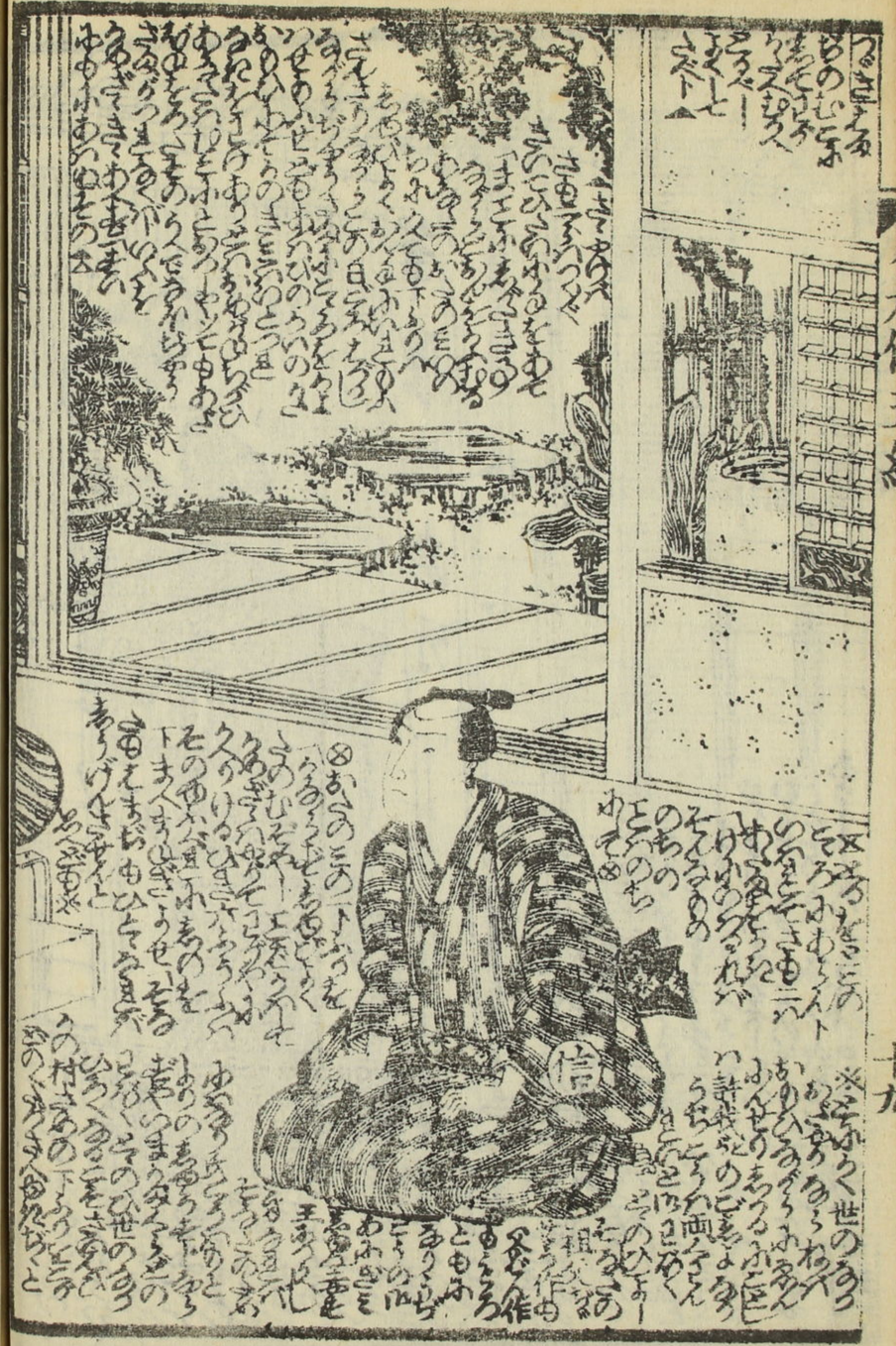







嘉永二年
清書雙紙
正月刊板


筆學指南所


信

爲永春水作　一勇齋國芳画

余。這策子に筆を採りて縮述するに既に六篇節婦濱路が傳に及びて。息しておりくらく。此婦や。虚中にあるといへども。人情の起く処。勸懲れいられるところ。玄妙あらぜといふことあり。實に書中の貫目たるべし。就中信乃と哀別の條の下に

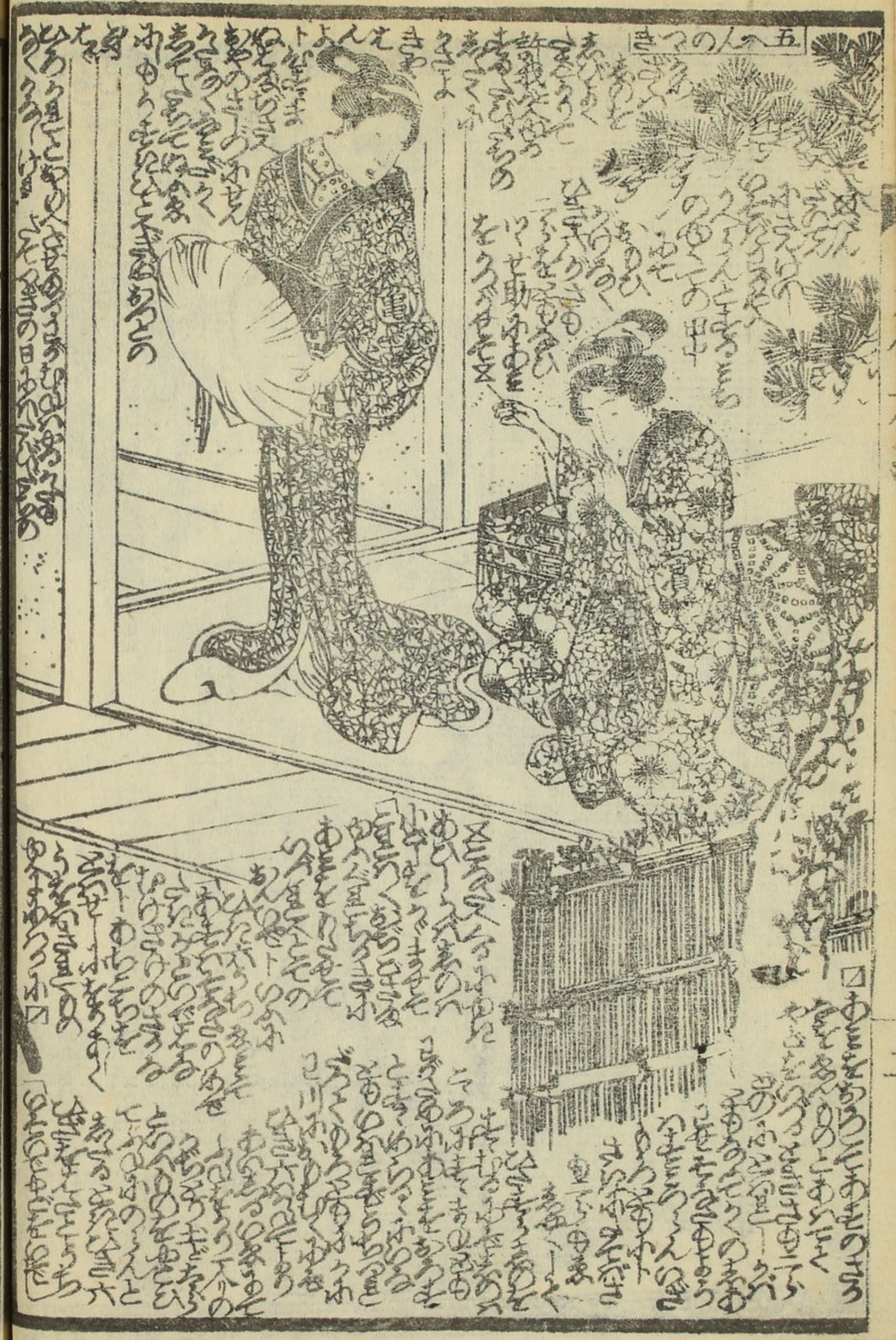
原傳

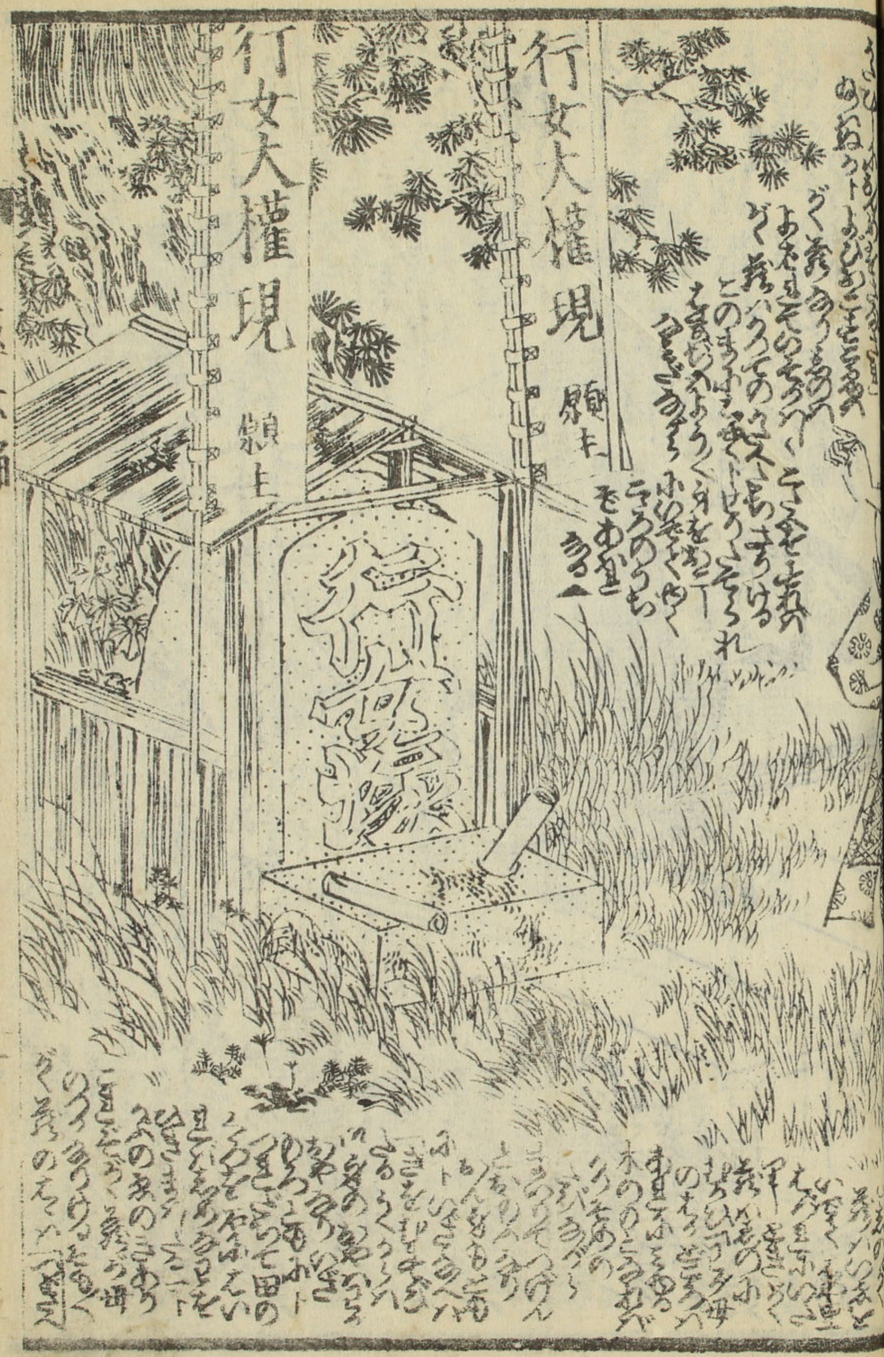
吁咢あるかも。この未通女。いまだ鴛鴦の衾を累ねず。連理の枕城並べずして。その情百年の夫婦に勝たり。尓るに信乃は情に引かれて。その心を動さず。よくその情に従ふて。男女別ある赴をゐさう。夫色東北迷津は賢不肖無差別之。江湖許多の少年輩。一下さびこの岸に臨ては溺ざるにあるもの少し。然るに今この義夫節婦あり。濱路が恋慕は樂しきく淫せんとにあらず。信乃が嗟嘆は悲しきて傷らず。下畧と曲叟が自評もまた妙之。尓る後今這假字読は只捷経に上肯とせられば。意味深長の境にいたらず。譬バこの書を閲しゆはいく。後に原傳を読むる咄しに笑さ狂言なれば。若さしく見るなどとくあらんか

嘉永二年酉孟春發兌

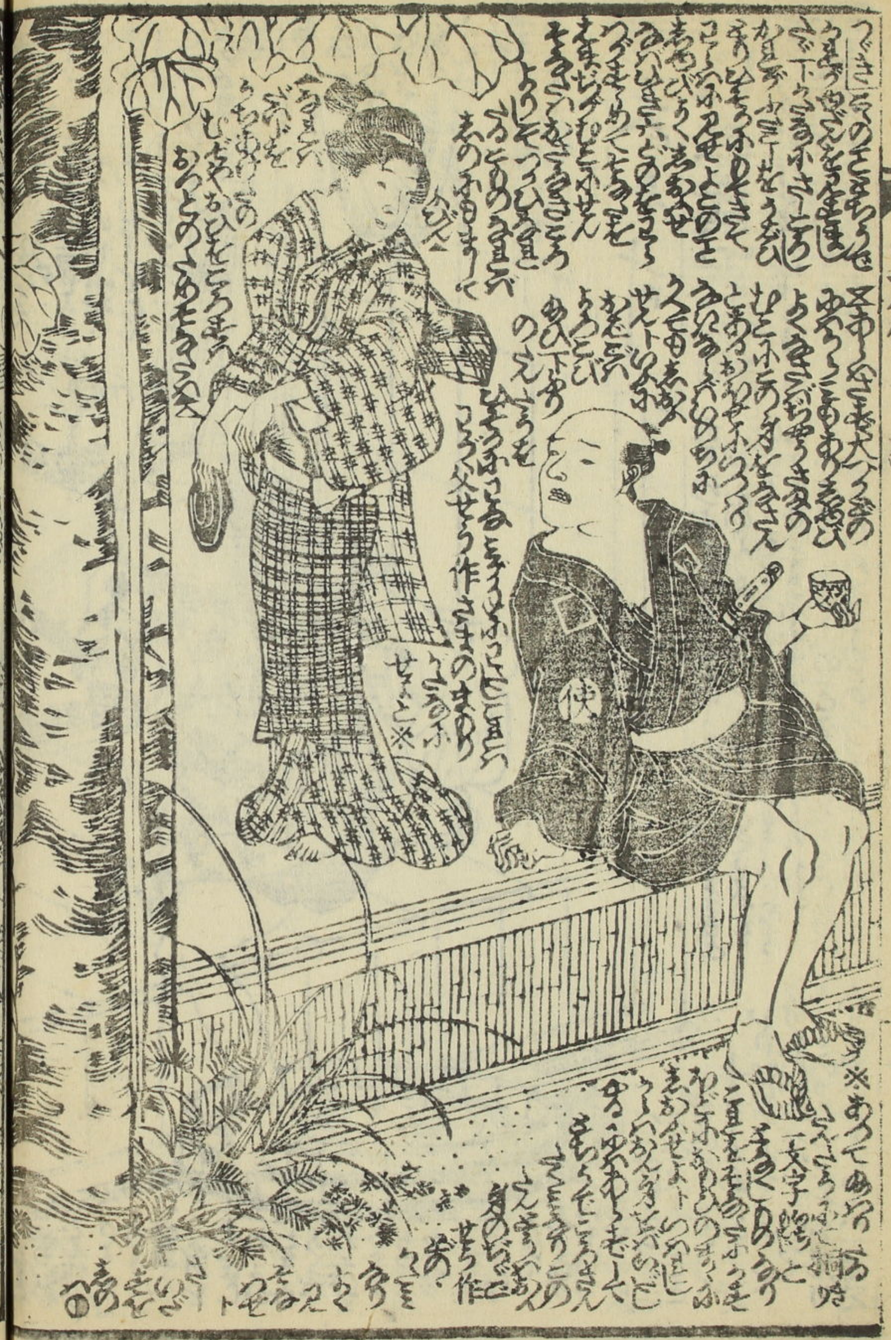
犬山道節忠與
三出濱路

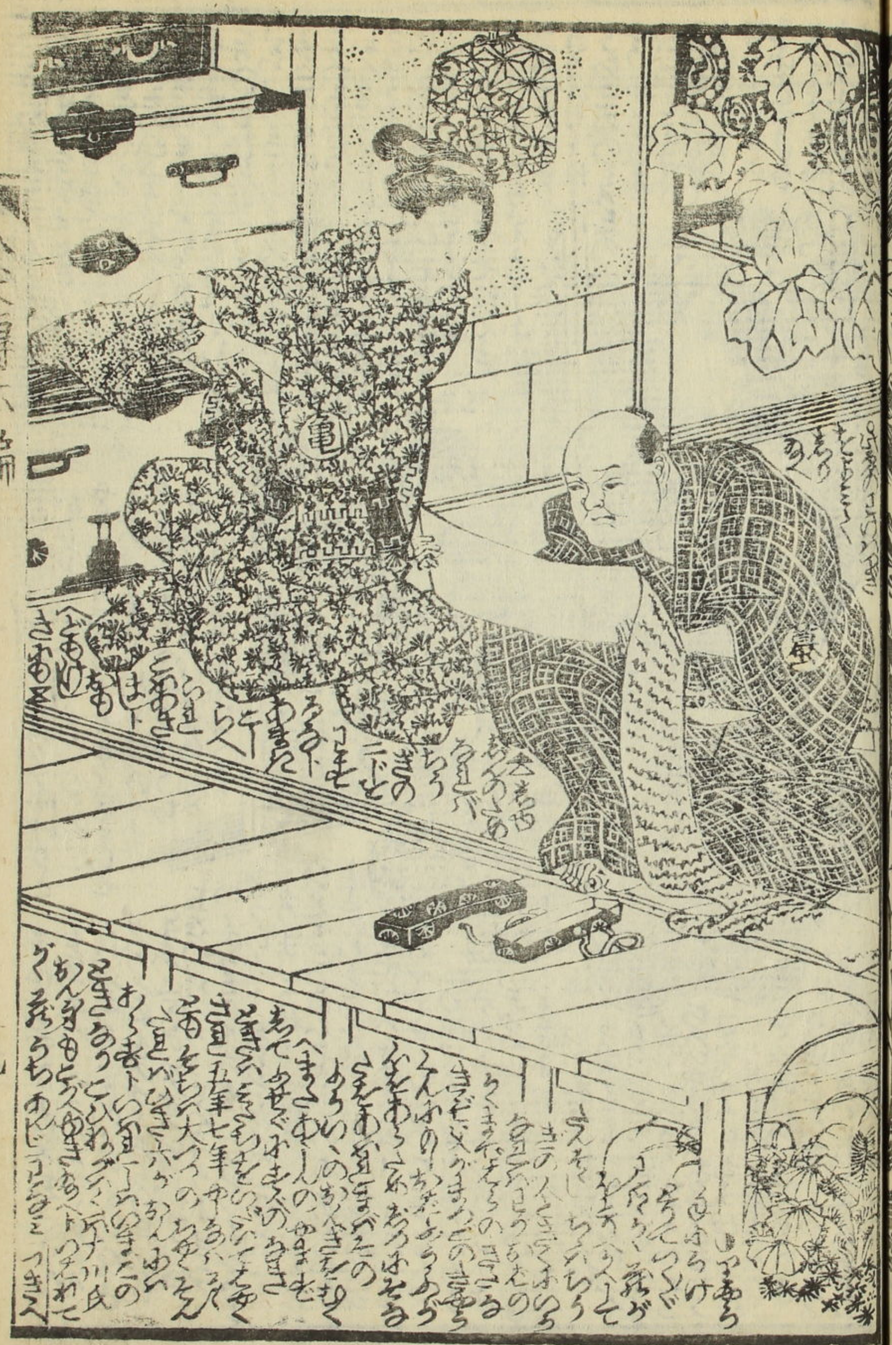
横堀史在村
犬飼見八信道

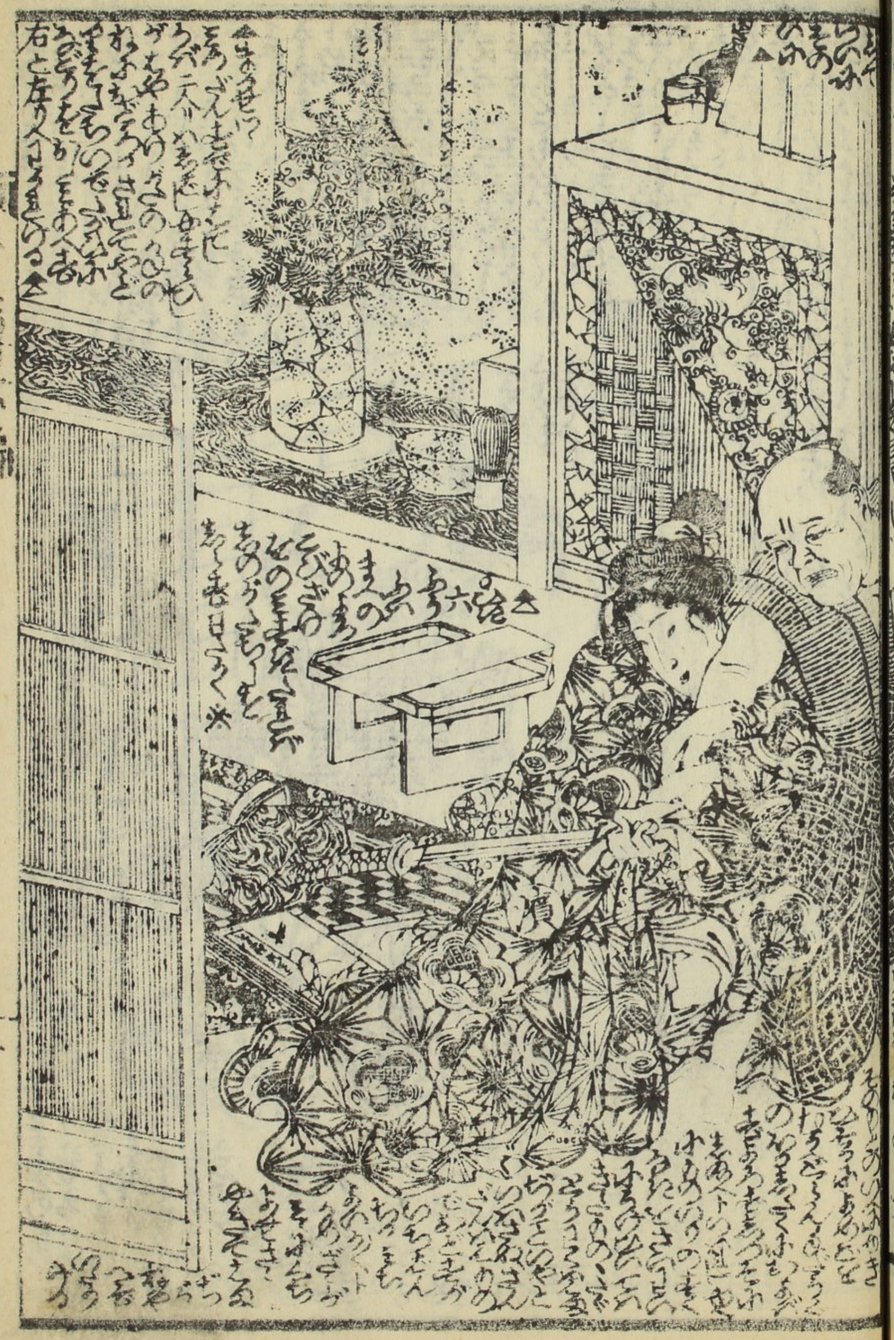



行女大權現
顔主
行女大權現
顔主

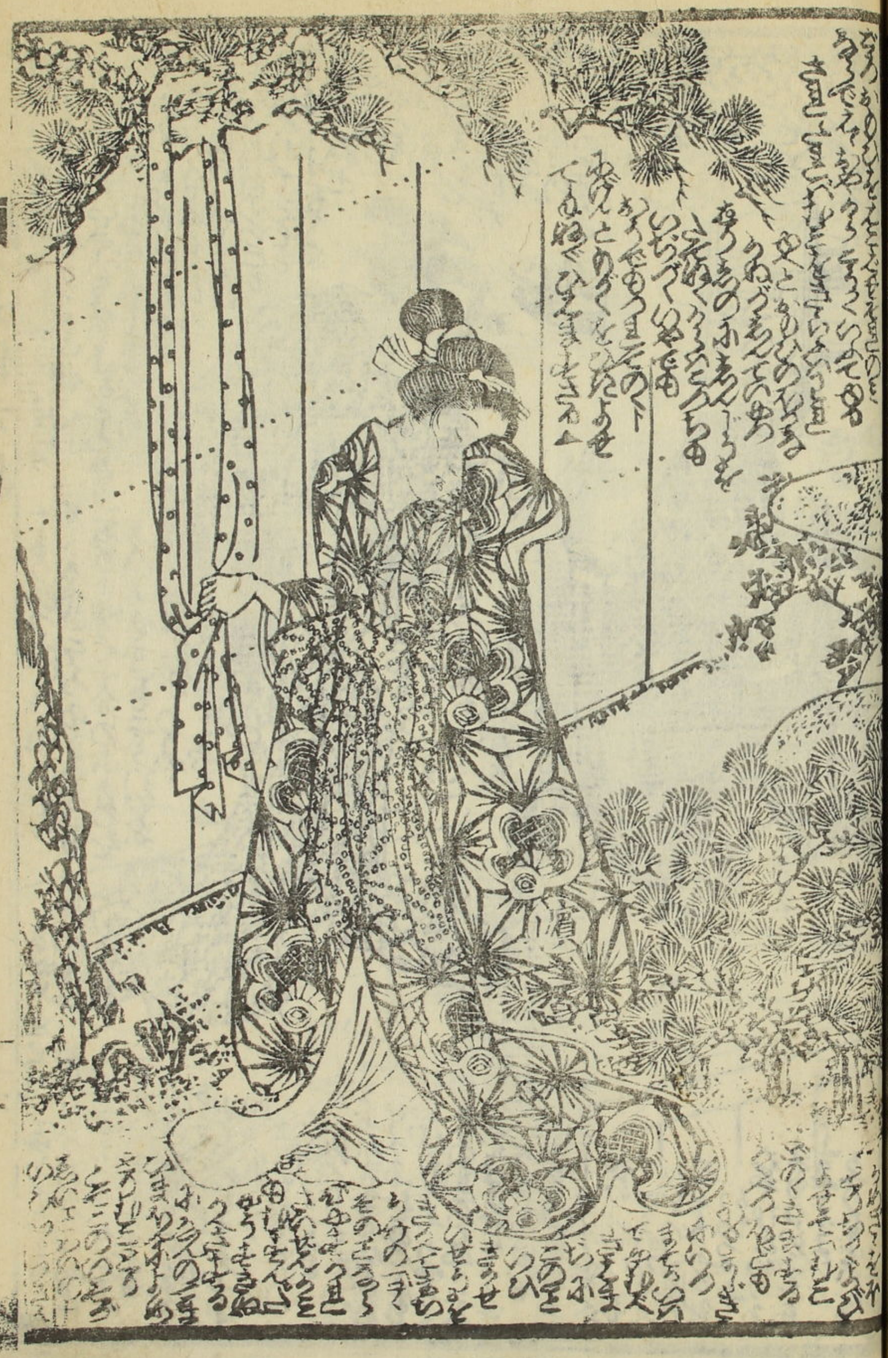
大々可
参講中

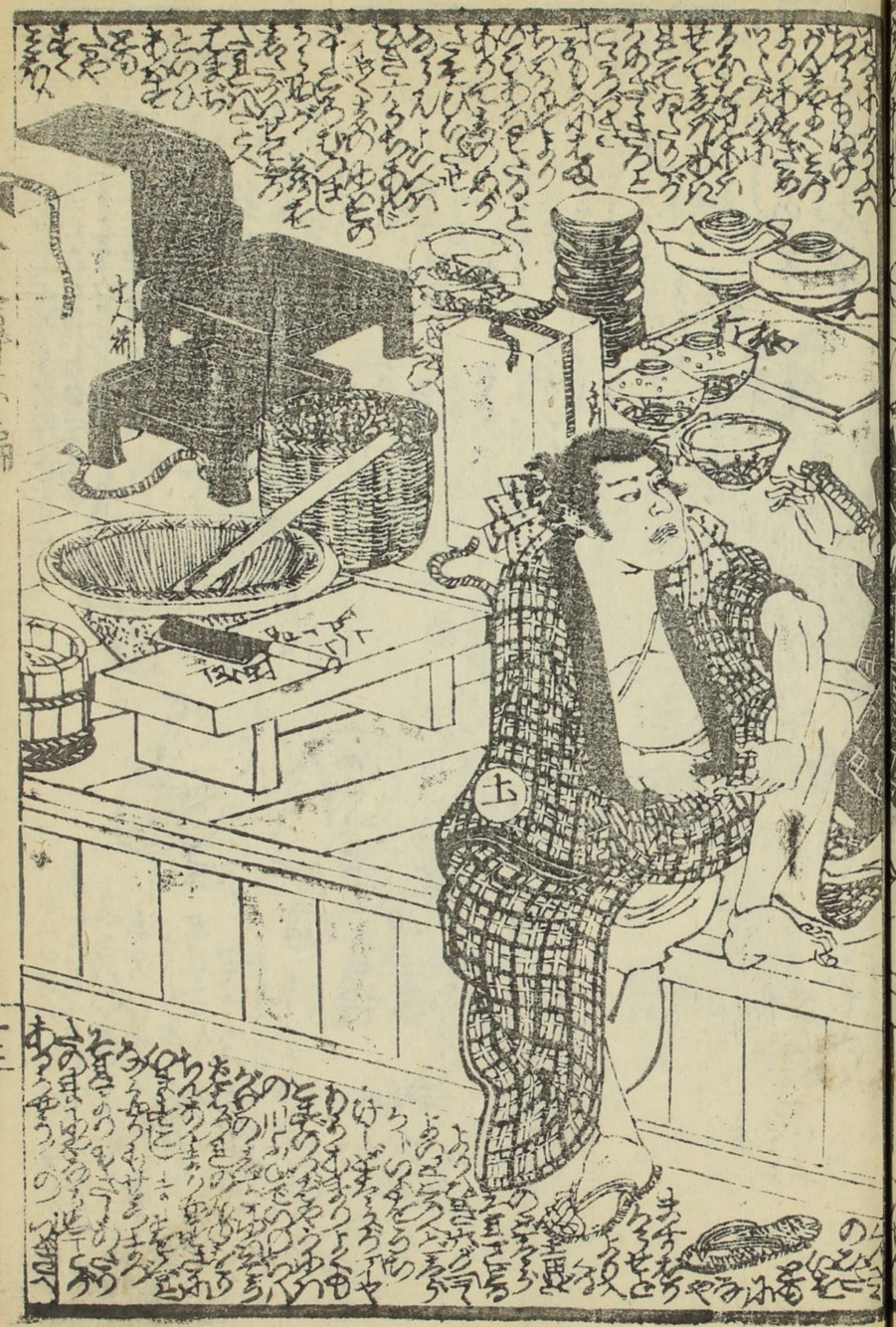






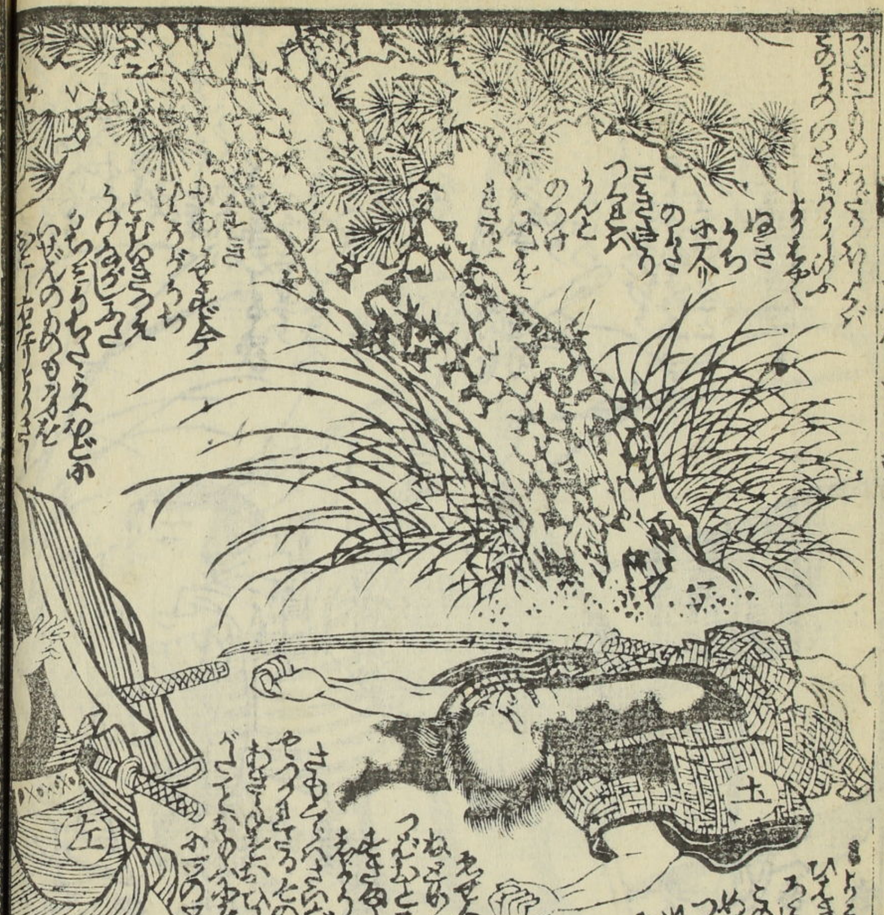
國芳画

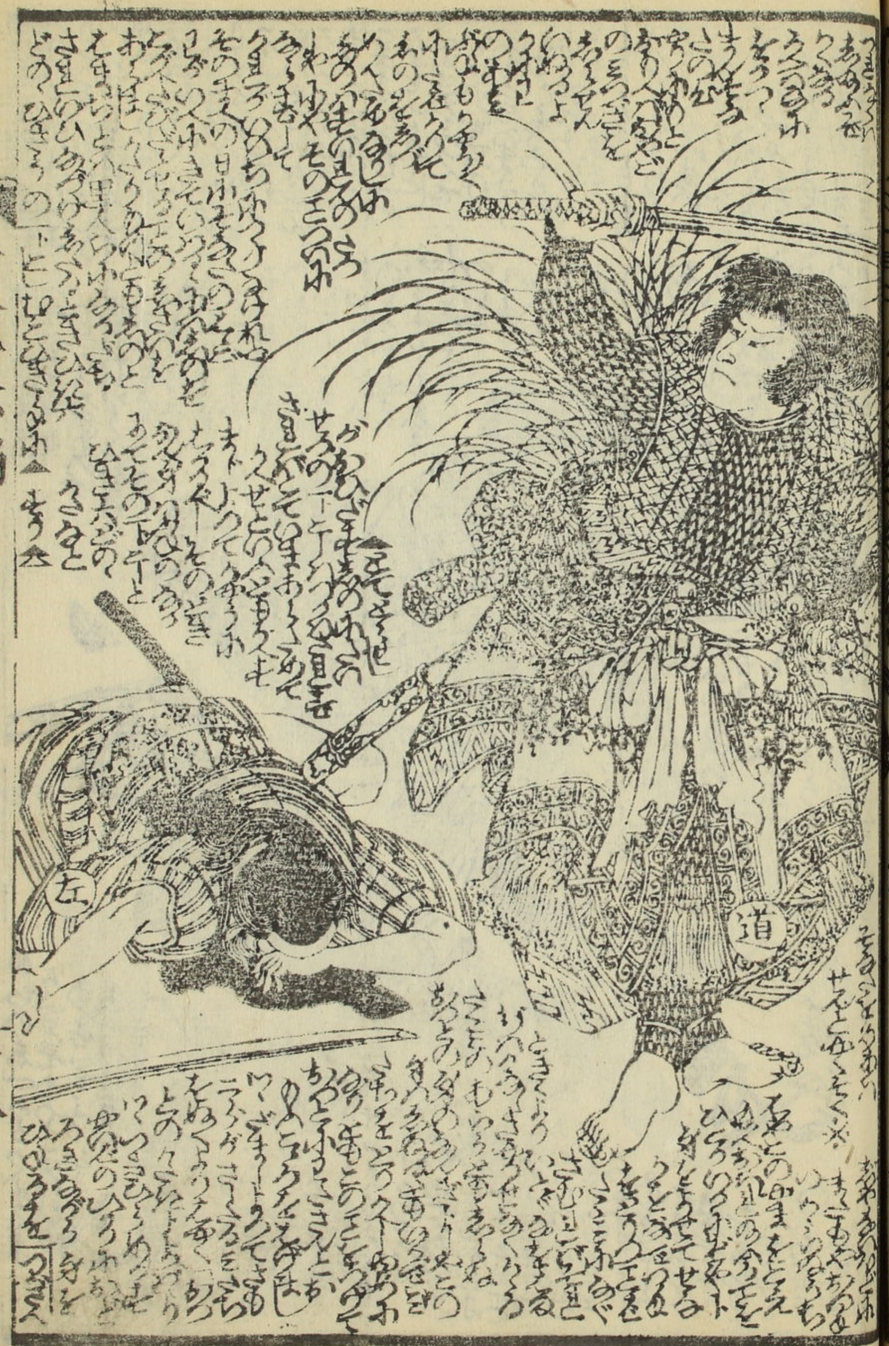




寂寞道人

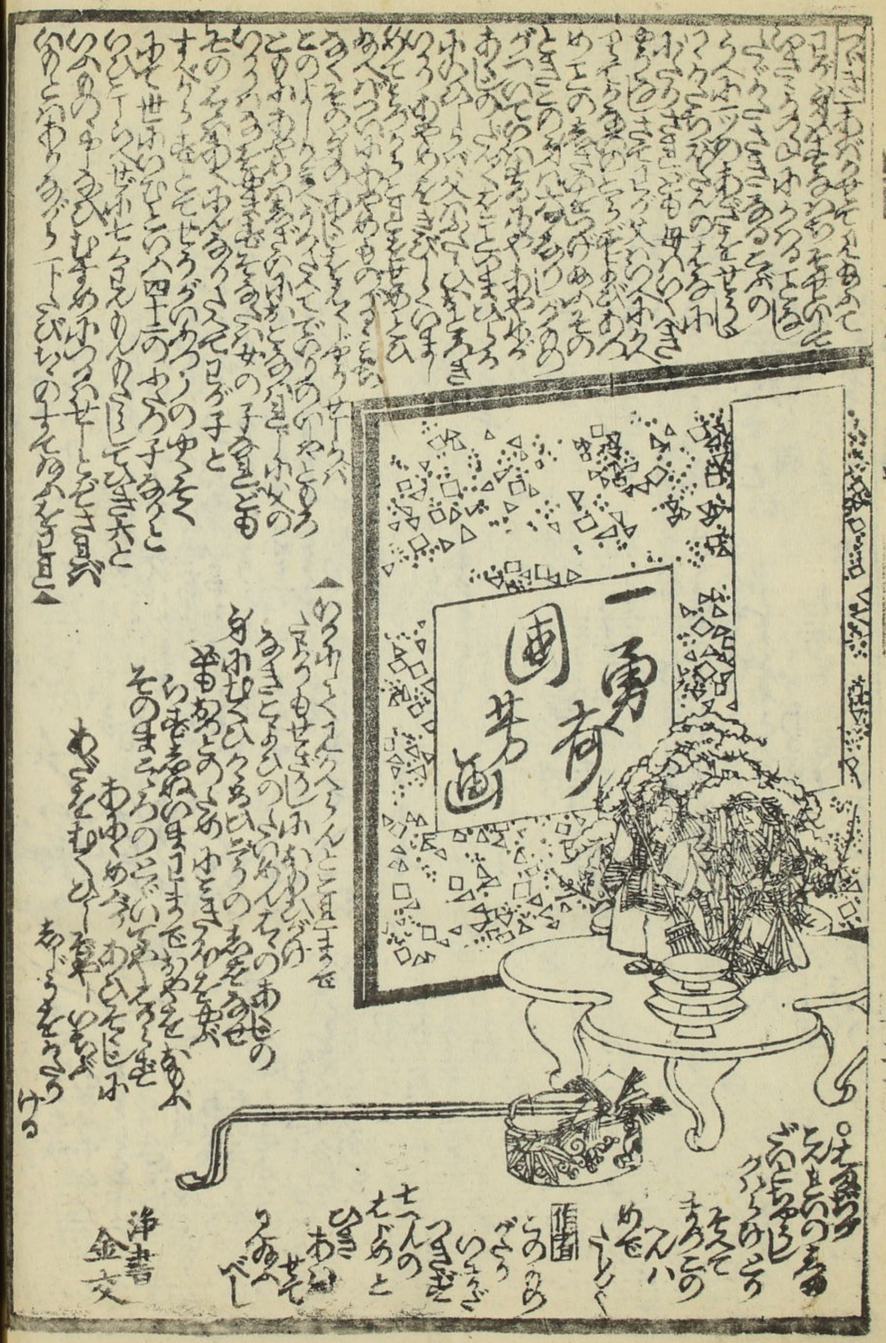
八犬傳六編

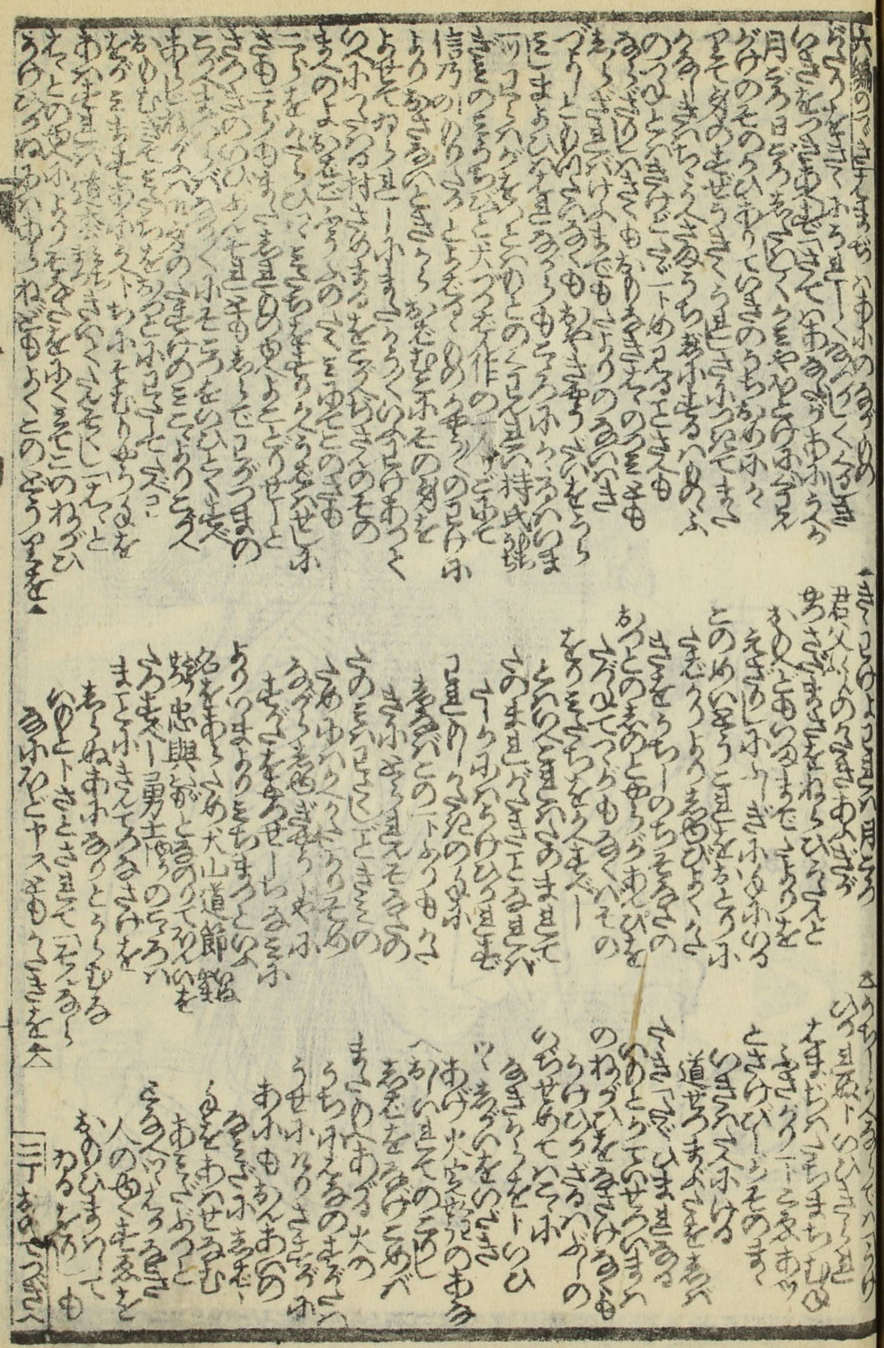

五
土



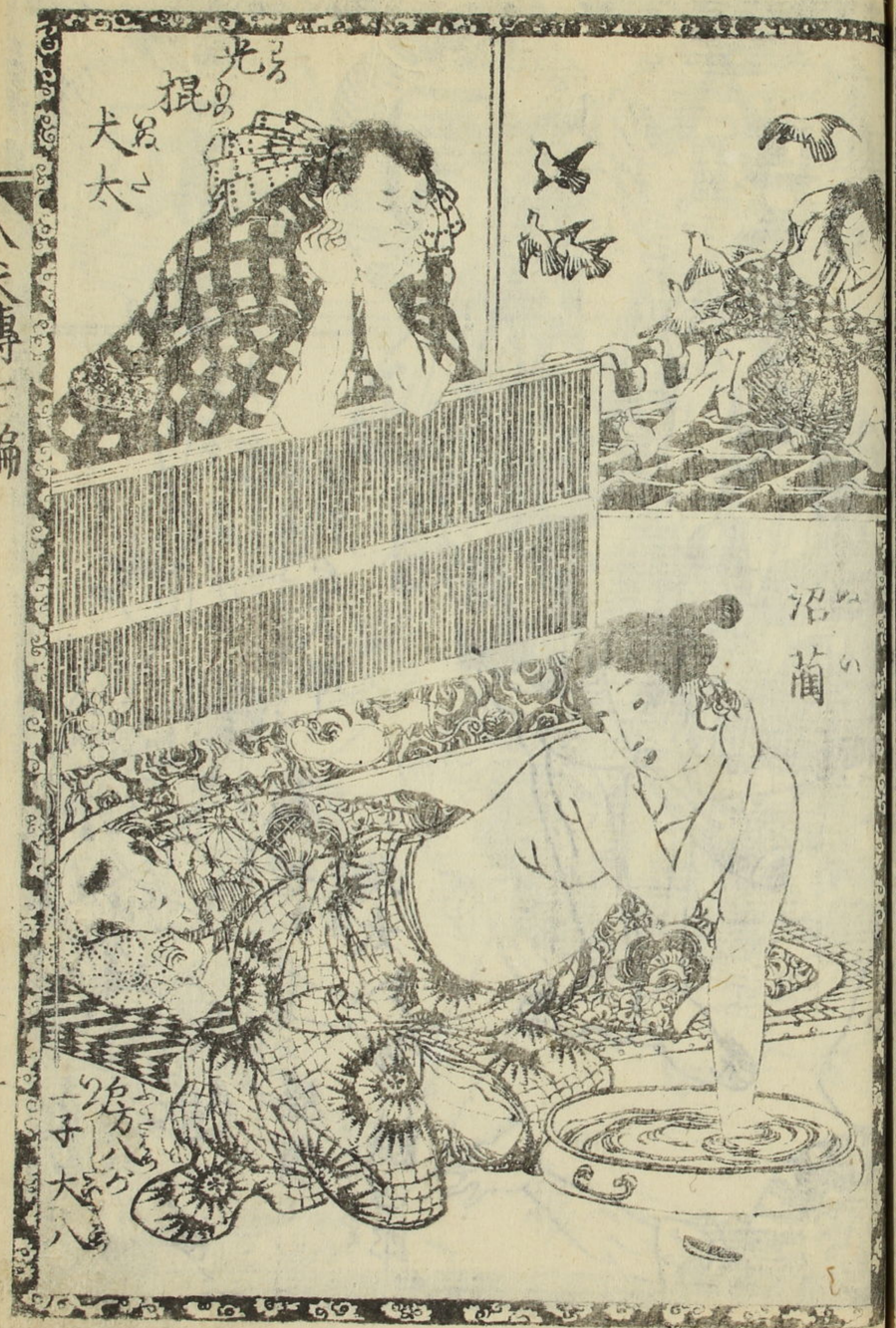
道
額

是ハ悪黨網乾左毋次郎也或秘藏之
額
左


一勇奇画



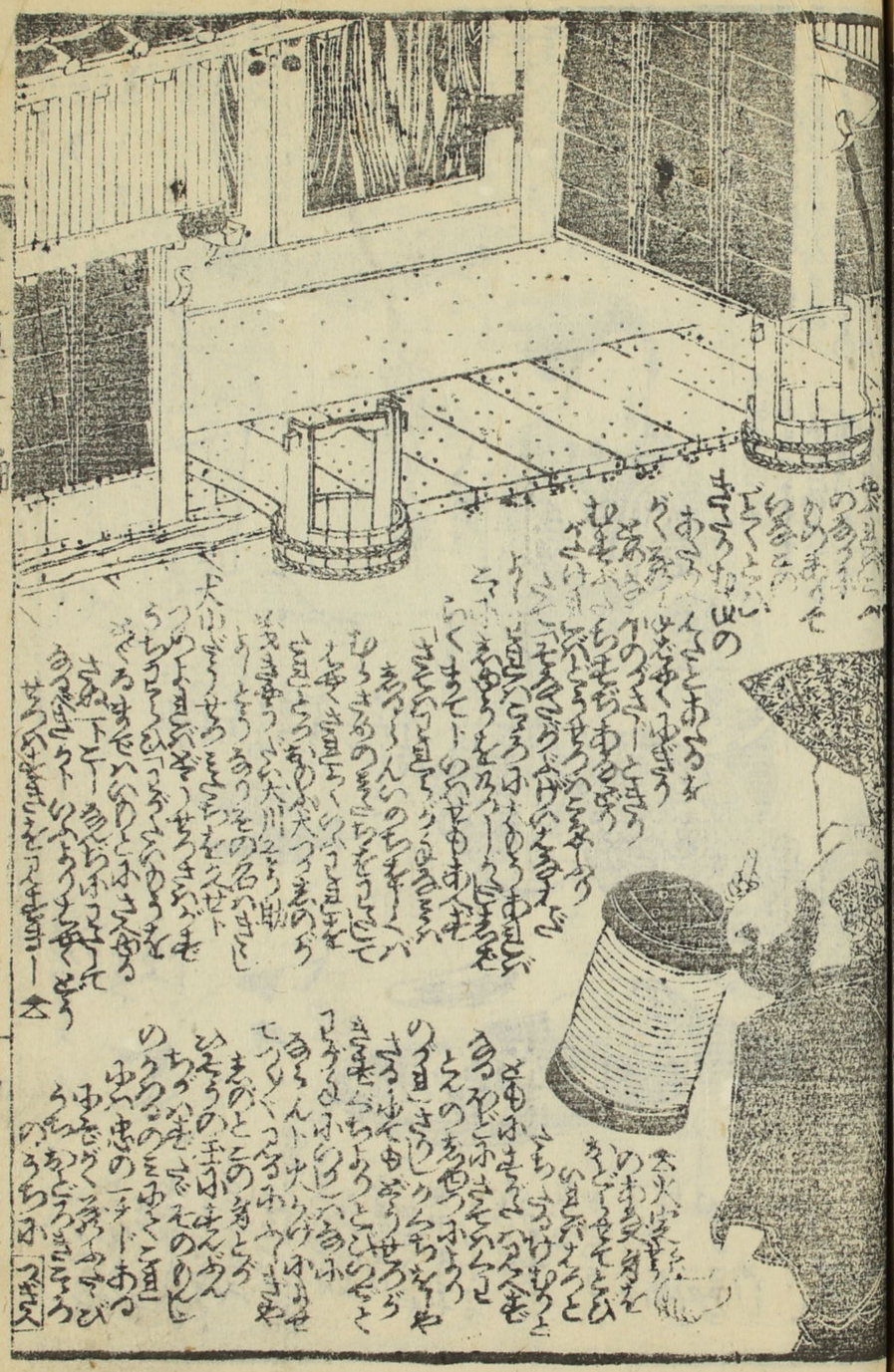
足利左兵工督
成氏朝臣
世俗賞て
許我の
御所
とゝ
古那屋
文五兵衛


光
棍
犬太
沼蔺
一子大八

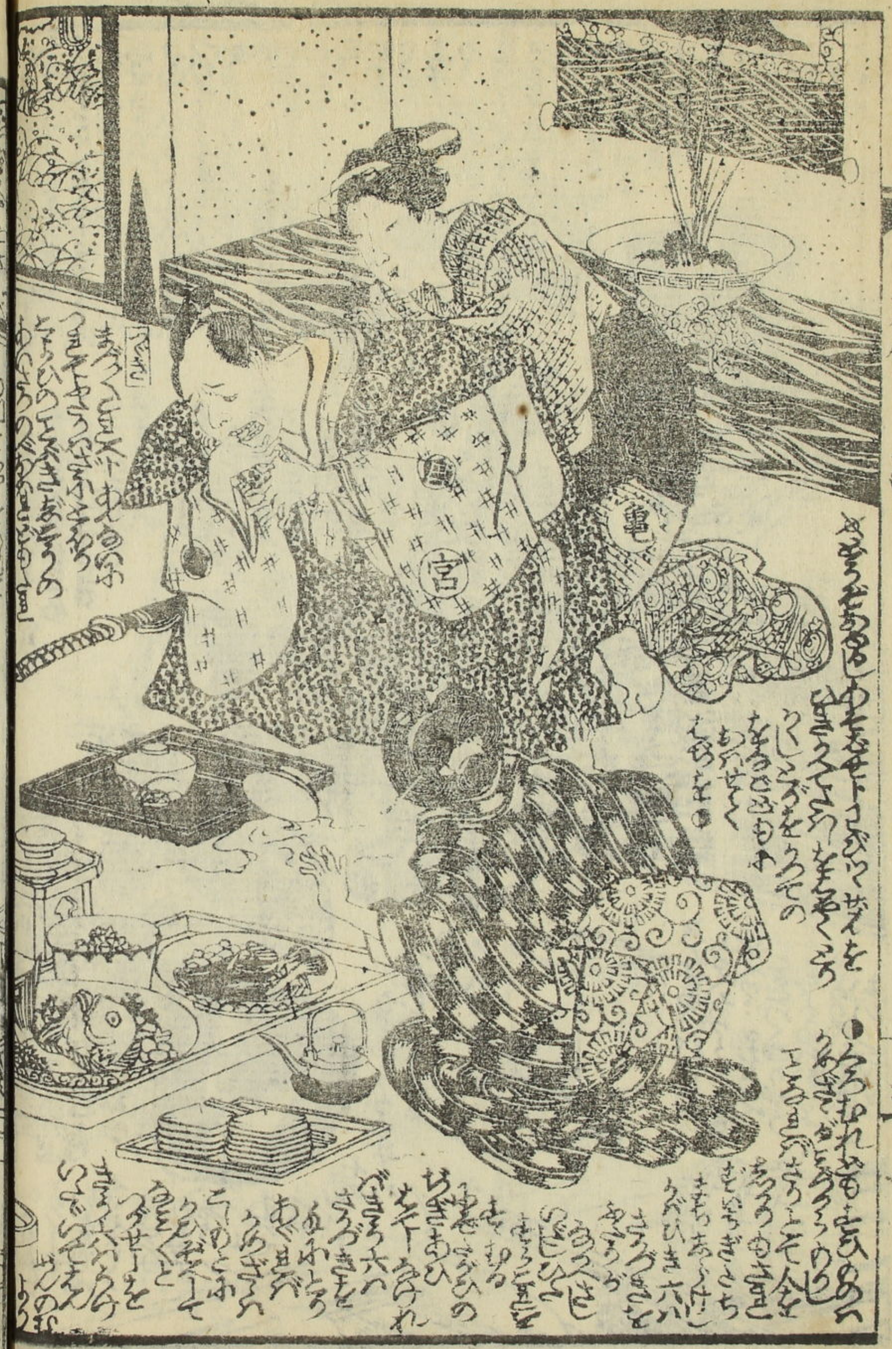
頭天王
犬田小文吾悌順
牛根孟六

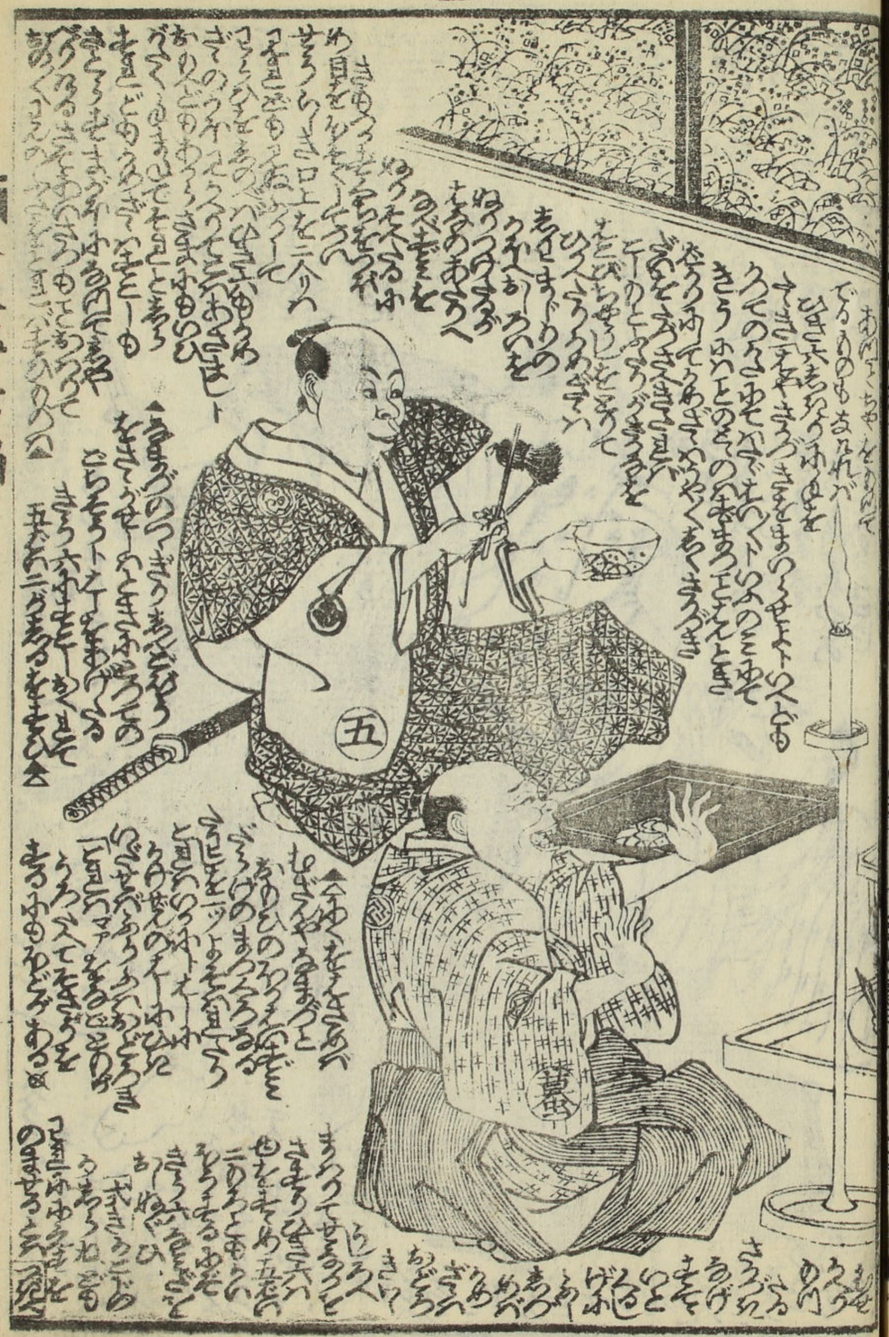
祝周牛
俠客山林房八郎
板扱均太
塩濱鹹四郎

五
宮



吸物椀十人前

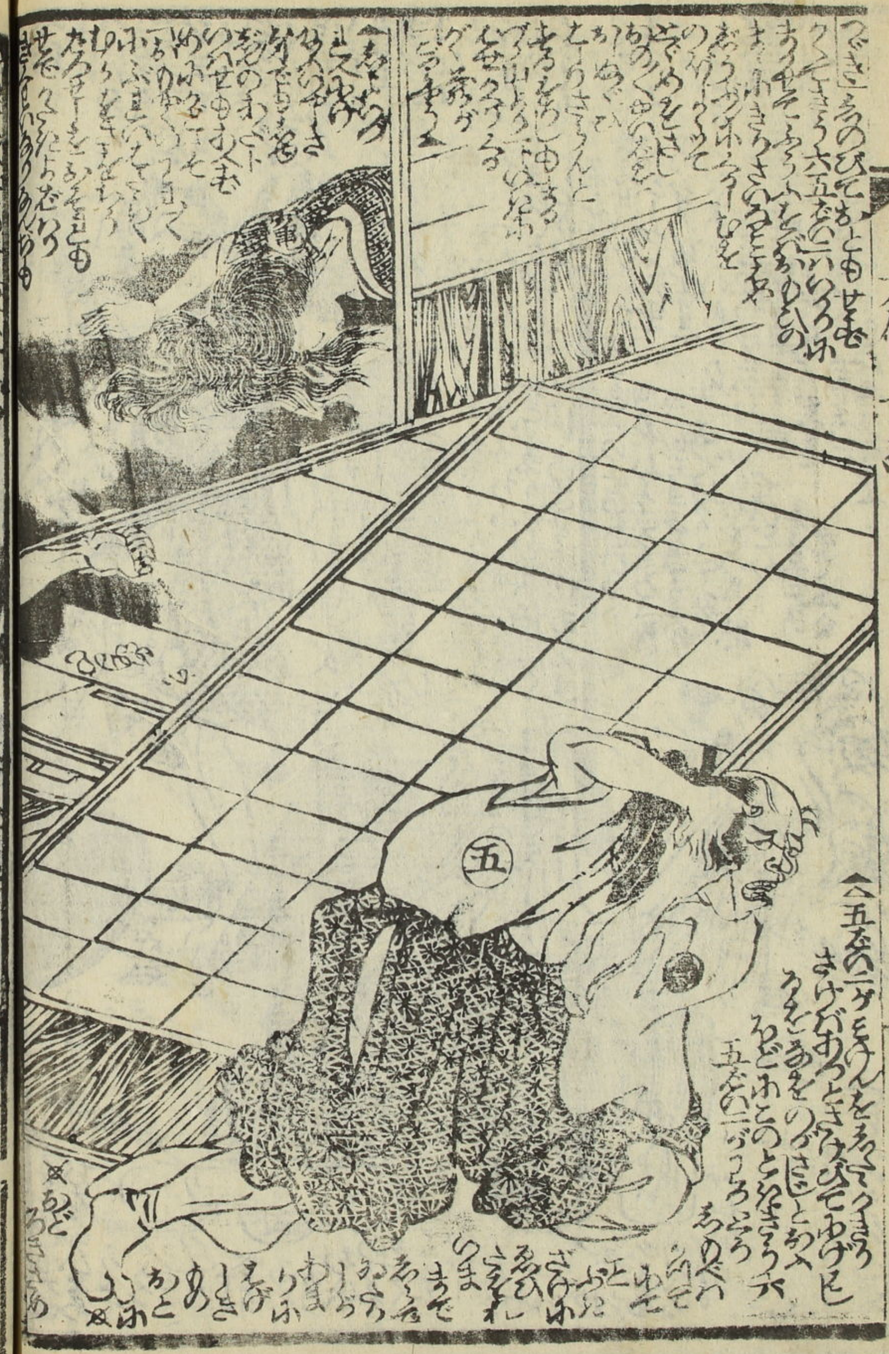




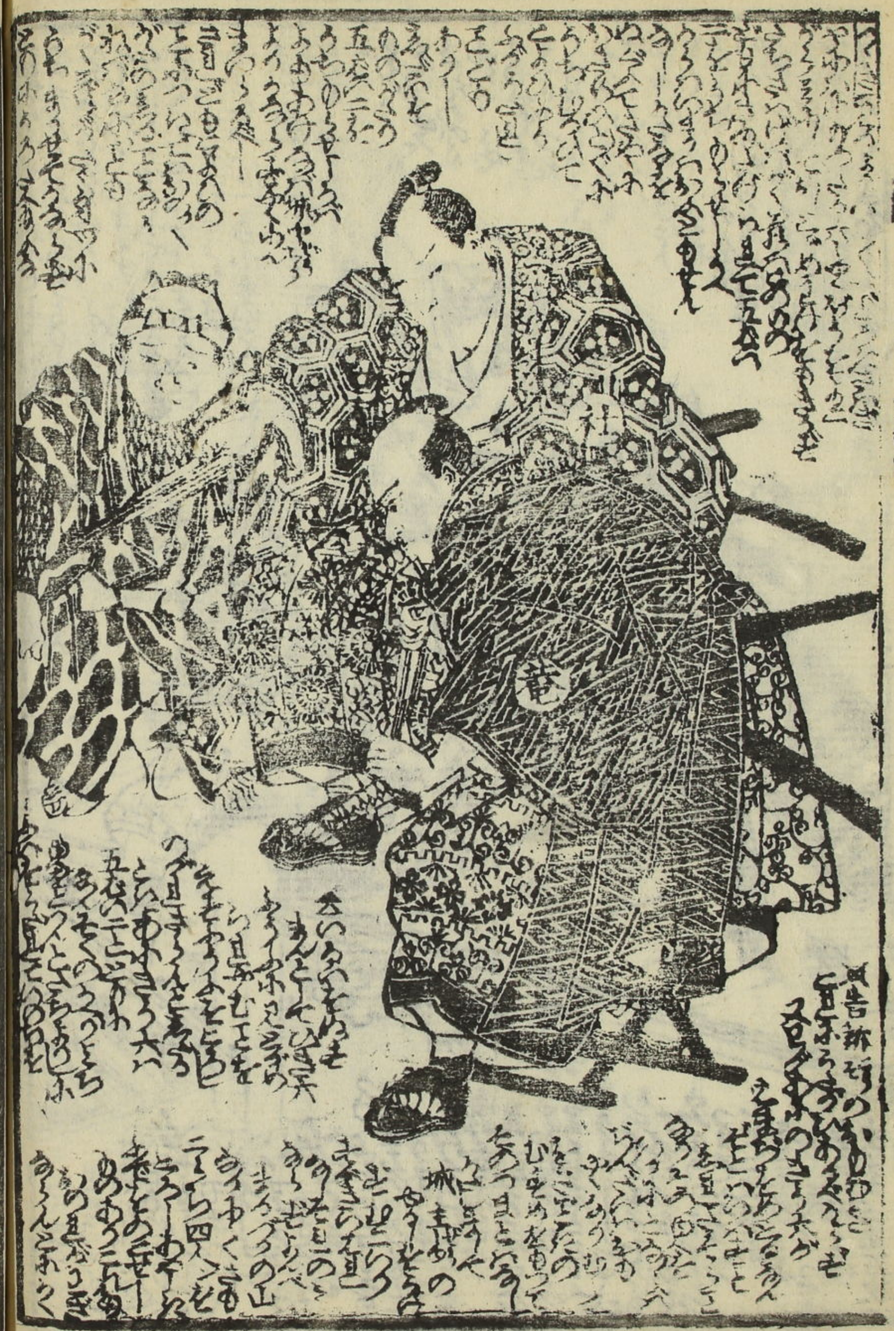
宮
蟇

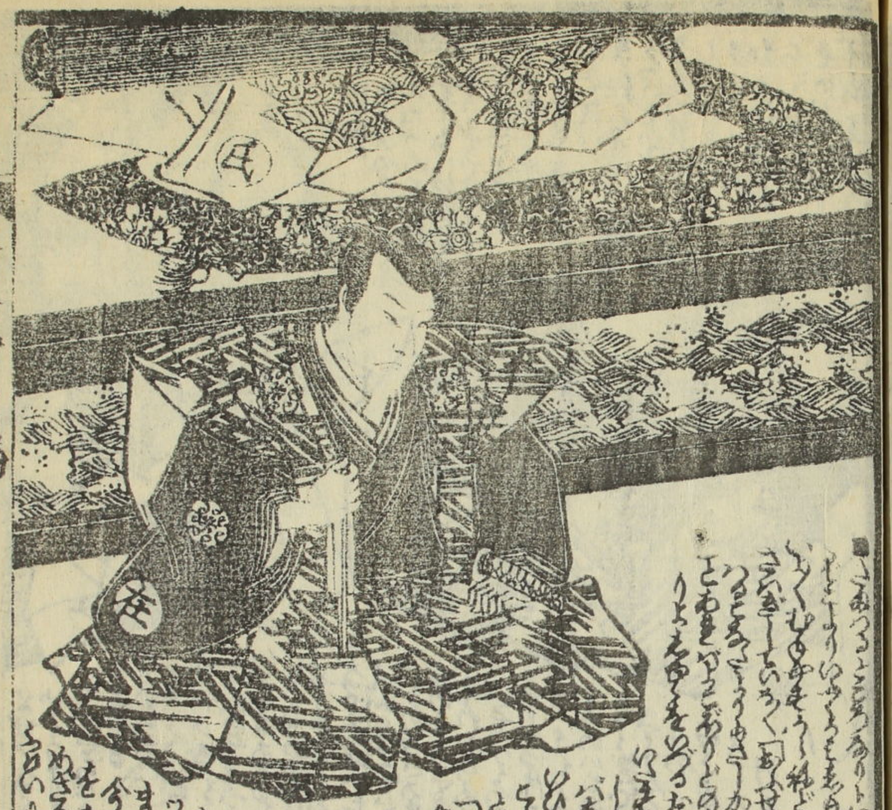
五
龜

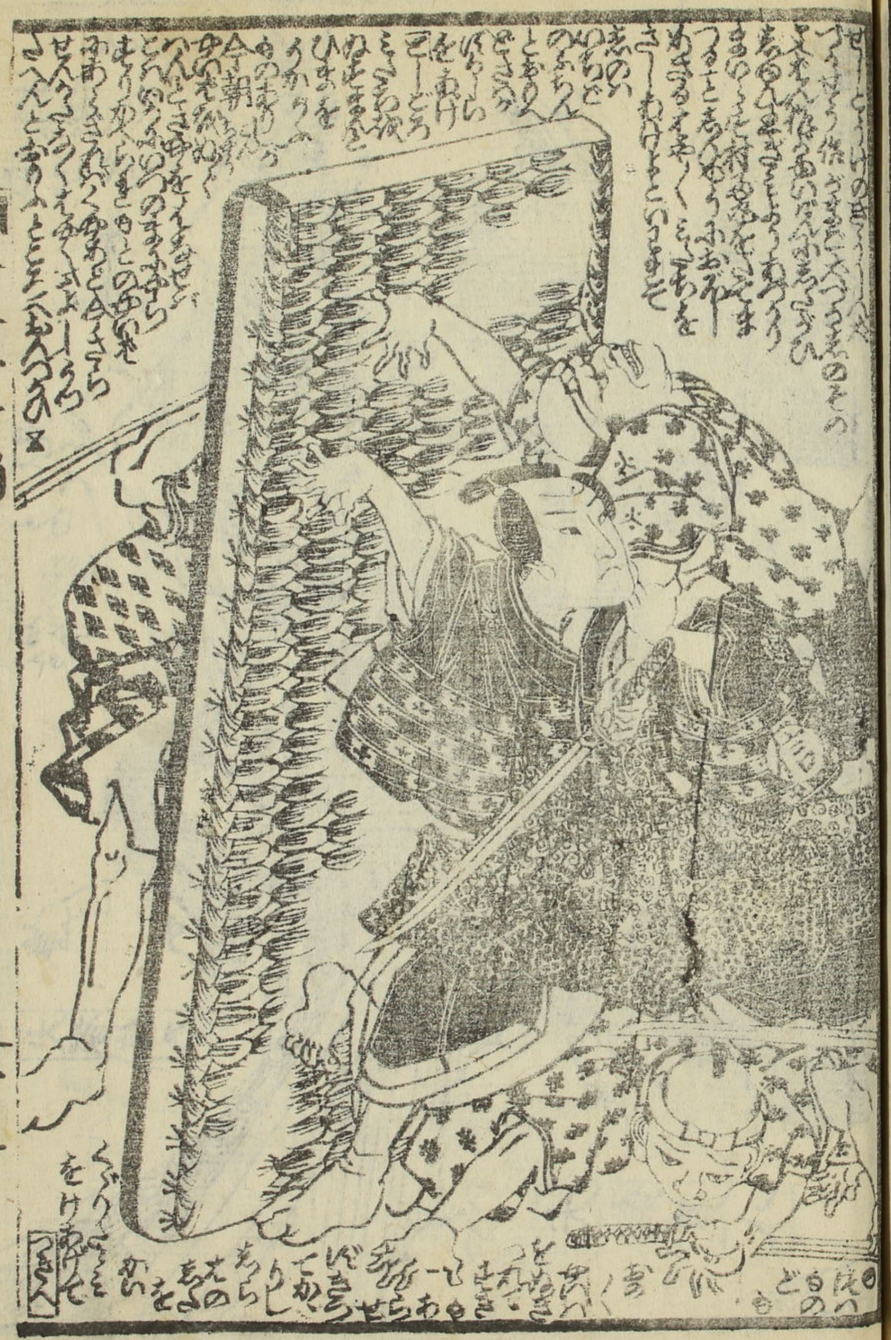
額
墓
宮
世



五

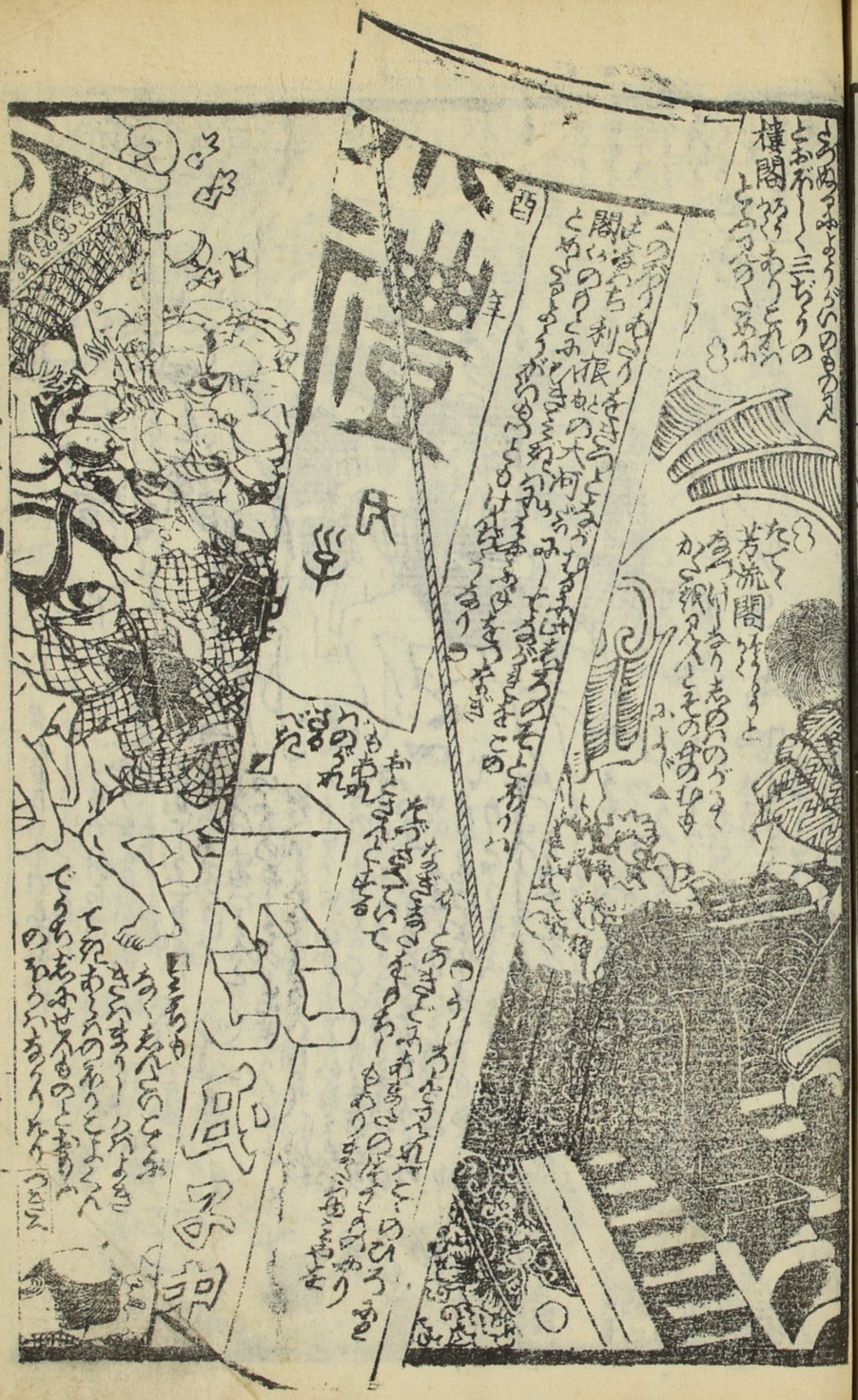




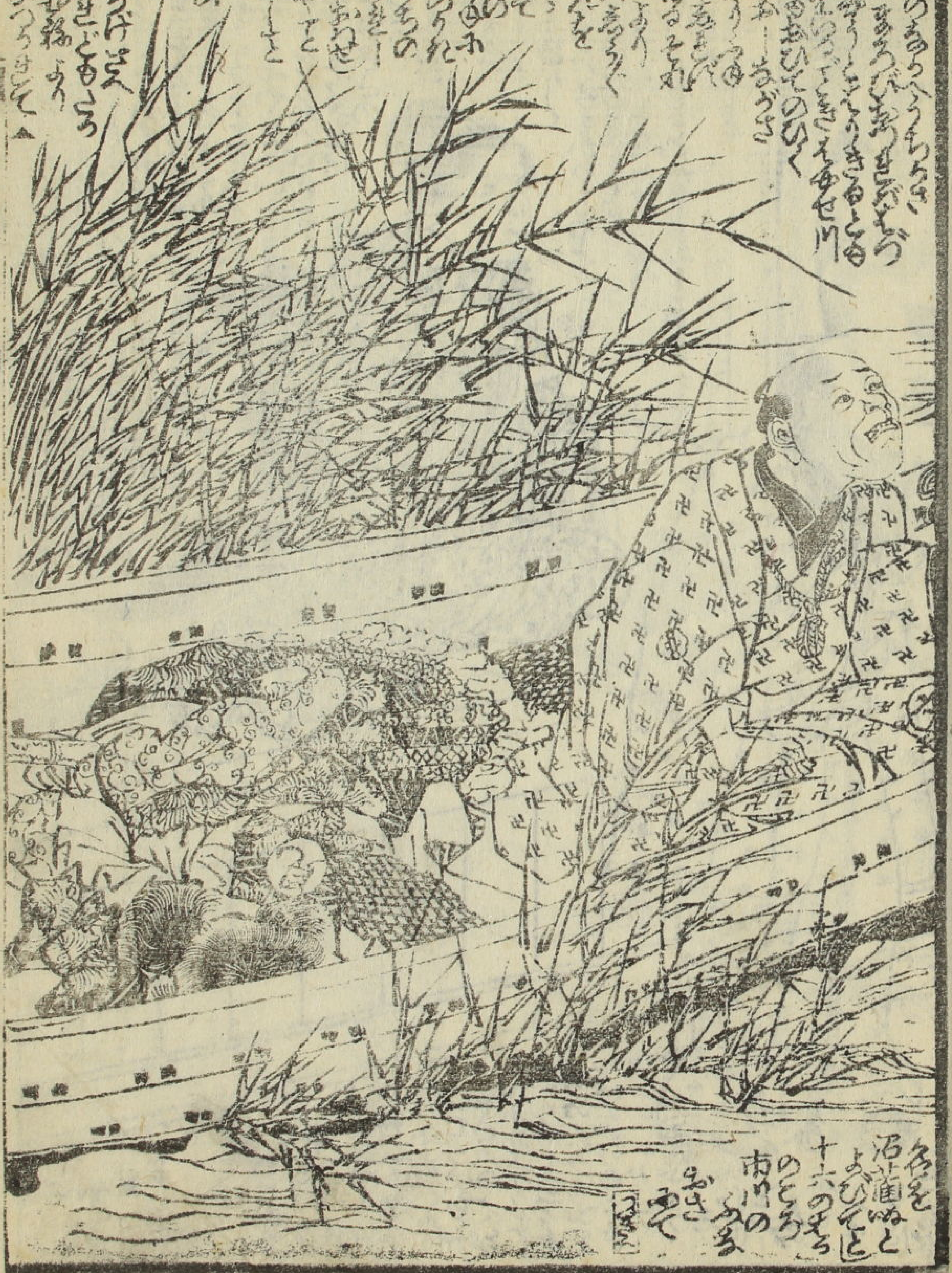


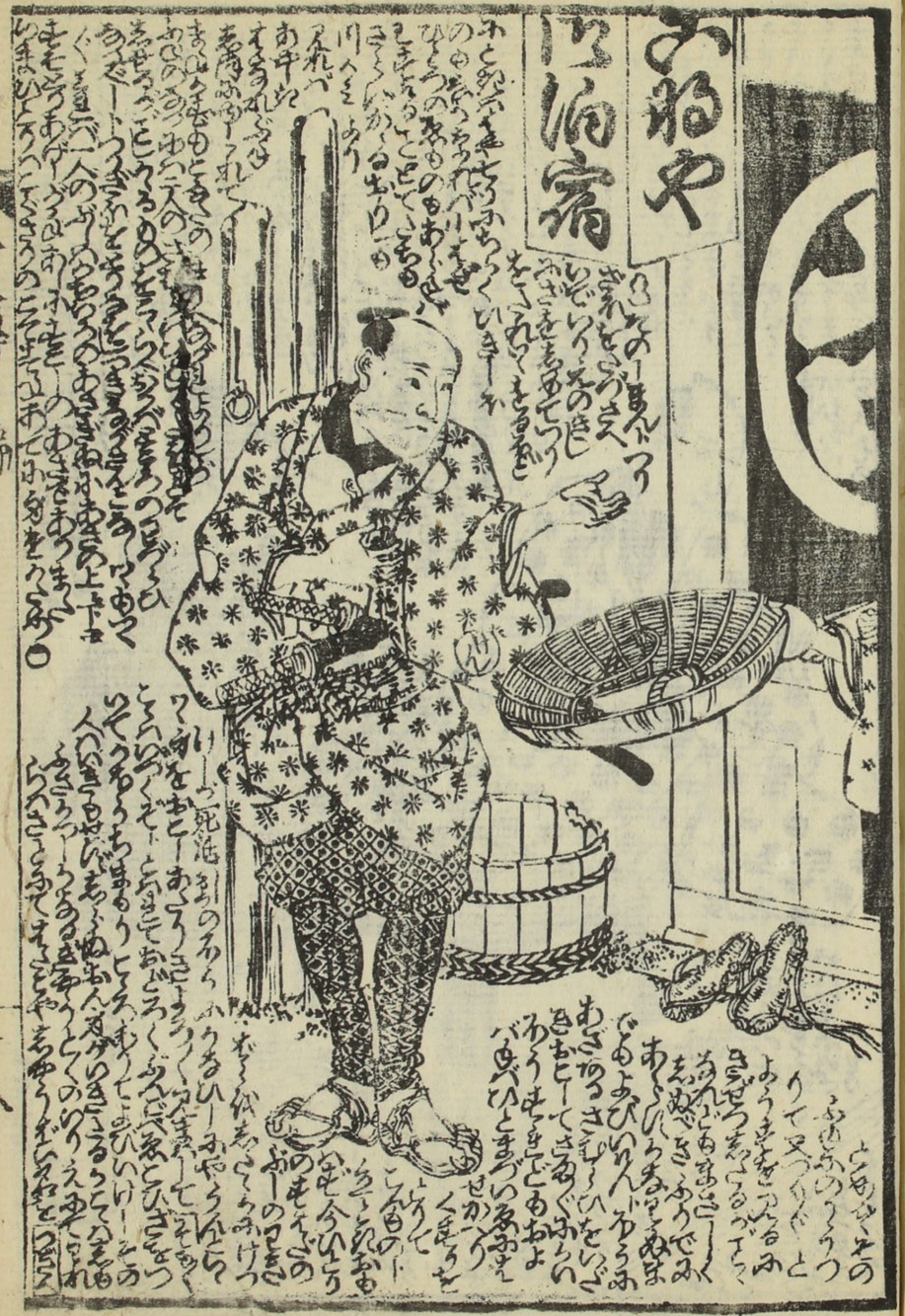
犬飼見八
犬塚信乃

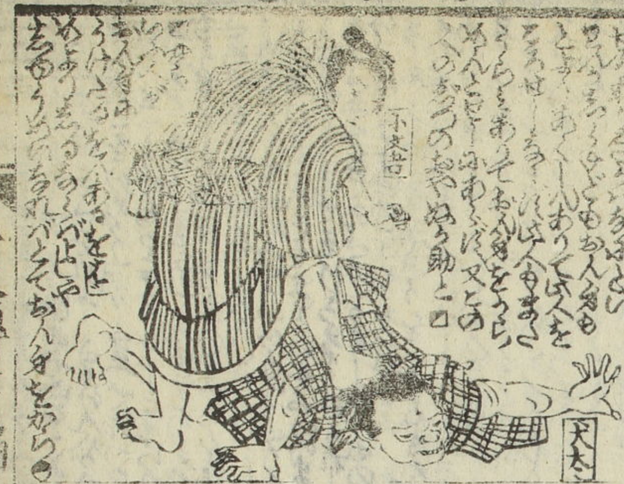
犬塚信乃
犬飼見八



つゞき
さる程に
とゞめ くむ けん八
[illegible]
新織[illegible]
他領[illegible]
行徳[illegible]
文五兵衛[illegible]
水際[illegible]
十六[illegible]
つゞき


二三里の
名を 沼藺ぬと よびなし 十六のそら 市川の





國芳画